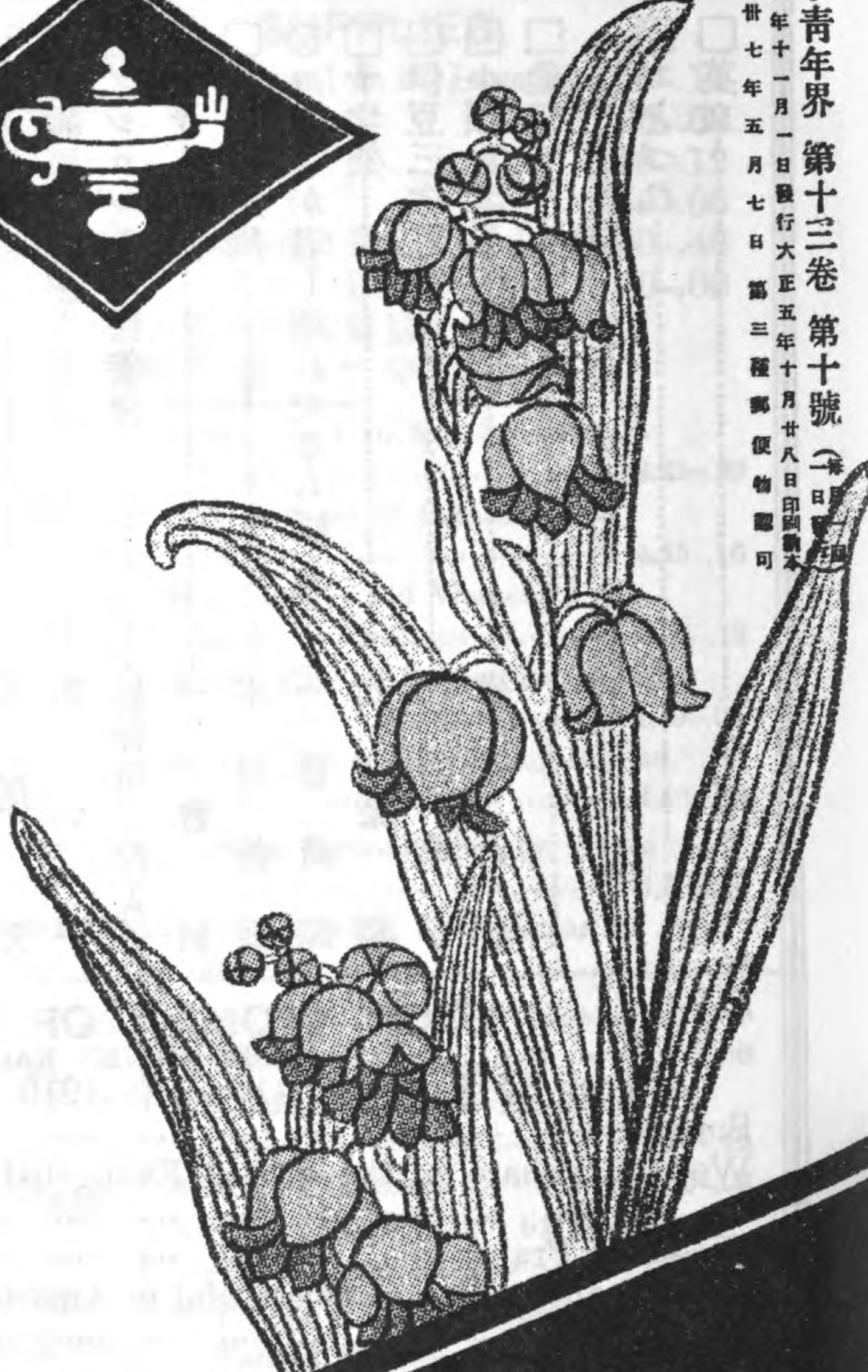
女子青年界 第十三卷 第十號（每月一日發行）
大正五年十一月一日發行 大正五年十月廿八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界



第十三卷
十一月號

要目

女子青年界第十三巻第十號

目次

YOUN WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII　　Octoder, 1916　　Number 10.

SUNDAY SCHOOL SUPPLIES.

Peloubet's Select Notes on the International S. S. Lessons	2.50–.12
Gist of the lessons, by Torrey	.55–.06
Tarbell's Teachers' Guide.	2.50–.12
The Lesson Handbook, by Meyer	.55–.06
Berean Leaf Cluster (Picture Ralls, Quarerly) Per Year,	10.00–.48
Berean Cards Per Year,	40–.08

萬國日曜學課(リーフレット)週刊十五組以上郵税不要
一枚三厘、期刊雜誌萬國日曜學課一ヶ年四回發行

スザンナウエスレー傳、スペンサー女史元良ヨネ子女史共著……………….25–.06
ハリス夫人傳、山鹿旗之進著 ……… 1.00–.08
七日間、美山豐子、田中夕風共譯…… 35–.06
歐米女子立身傳、根本正譯 ………… .40–.06
へれんけらー自叙傳我身の物語…….50–.08
穽より、ミラー原著、伊藤宗輔譯…….30–.06
みあしのあと、セルドン原著、安孫子貞次郎譯……………………………….55–.08
戰場の婦人、沖野、吉田共著………….20–.04
家庭清話、堀口翠巒著………………….30–.04
野百合、碧川企牧男著………………….25–.04
星影、三浦泰一郎著…………………….30–.04
怒るな働け、嘉悅孝子著……………….80–.08
殿の處女、ダヌンツイオ著、知達譯 1.10–.08
武藏野の一角に立ちて、別所梅之助著 ……………………………… 1.10–.08
(縮刷)何處へ行く、松本雲舟譯……1.10–.08
一日一善、山本瀧之助著……………….65–.08
日々の力、根本正譯、…………ポッケット形紙貳拾五錢、布四拾錢、皮九拾錢
同 四六版紙參拾五錢、布五拾錢、皮壹圓
日々の基督、津金訓村著………… 1.30–.08
靈交錄、フォスヂック原著、栗原基譯 ……………………………….80–.08
耶蘇の人格、栗原基譯………………….60–.06
クリスマス對話集、小野兵衛著……….35–.06

Gospel Story in Art, by John La Farge …………………………… 8.25–.20
Life of Jesus of Nazareth, by Hale. ……………………………… 4.15–.16
Greater Men and Women of the Bible, by Hastings …………… 3.30–.12
Quiet Talks on Prayer, by Gordon ……………………………… 1.40–.08
Quiet Talks on Service, by Gordon ……………………………… 1.40–.08
Thirteen Appreciations, by Whyte ……………………………… 3.30–.08
Second Coming, by Kummer & James ……………… ………… 1.10–.08
Loneliness of Christ, by Keadle .85–.06
Discipline of Prayer.(1916)……… .77–.06
Illustrated History of Music, by Lapper ……………………… 4.15–.12
A B C of Cooking ………………… 1.10–.06
Songs for Quiet Hours, by Plante ……………………………… 1.10–.08
A French Woman's Notes on the War, by De Pratz …………… 3.30–.12
Advice to a Wife, by Chavasse 55–.08
What a Young Girl ought to Know, Mrs. Wood-Allen ……………… 2.20–.12
Whata Young Woman ought to Know, Mrs. Wood-allen……… 2.20–.12

MAGAZINES.

Cassell's Magazin (E)	40 per Year	5.00	Delineator (A)	50 Per Year	5.00
Elite Styles (A)	60 " "	6.80	Girl's Own Paper (E)	45 " "	5.00
Ladies Home Journal (A)	45 " "	5.80	Mcclure's Magazine (A)	50 " "	5.00
Woman's Home Companion (A)	50 " "	5.00	Literary Digest (A)	30 " "	10.50

東京 教文館 銀座
(電話京橋二五二) (振替東京一一三五七)

K. MUKAI.

NO. 36, HONCHO NICHOME, YOKOHAMA.

TEL. NO. 3030.

SILK STORE
WHOLESALE & RETAIL

DRAWN-WORK & EMBROIDERY

謹啓今般銀座通り新橋際出雲町三番地に出張店を設け絹及リンネル刺繍類其他種々嶄新なる製品を取揃へ破天荒なる廉價を以て十月十一日より大賣出し開始仕候間何卒御光來の上御高覧被下度願上候特に御婦人用アンダーウエヤー及ハンカチーフは本店獨特の技巧と意匠を兼ねたる品にして歐米の流行界に最も稱讃せられつゝ有之候へば御贈答品として最も適當と相信じ申候

紳士用ハンカチーフ　貴婦人用ハンカチーフ

テーブルかけ　羽二重フトン

西洋婦人キモノ　西洋ネマキ、其他種々

新橋際天下堂前

横濱 向井出張店

電話新橋三六五三(呼出シ)

本店 横濱市本町二丁目(電三〇三九)

◎常盤唱歌集演藝集第一、第二、第三

孰れも定價金四拾錢、郵稅金六錢

◎豫約全書 一年研究　定價金四拾錢　郵稅金六錢

◎耶蘇一代記　定價金貳拾錢　郵稅金四錢

◎聖書修身談　定價金貳拾五錢　郵稅金四錢

◎日曜學校五十教課　定價金八錢　郵稅金貳錢

◎文字の話　定價金拾貳錢　郵稅金貳錢

◎十誡の話　定價金參拾錢　郵稅金四錢

右の外日曜學校教師諸君の用ゐられて有益なる雜誌も亦生徒諸子に與ふる面白きカードなど澤山取揃へこれ有候間目錄御入用之御方へは御申越次第直に進呈致すべく候

横濱山手三十七番　常盤社

銀座で大評判のコダカラ—

コダカラ—

は銀座二丁目煉瓦通西側の角の店です
は東京で唯一軒の兒童教養百貨店です
は兒童の生活に要る萬物を供給します
は營利本位でありませんから廉賣です
は兒童教養研究所附屬事業の一つです

コダカラ商品目錄を載せたる「コダカラ」第一號には兒童敎養研究所の趣意を掲載す‖御申込次第進呈ー

兒童敎養百貨店　コダカラ
銀座二丁目一番地
電話京橋一〇四一
振替東京三四三九三

コダカラ謹製
立太子式記念

劍（紙切）
甲　金壹圓
乙　金五拾錢

鏡と璽（文鎭）
甲　純銀製　金拾圓
乙　銀鍍金　金壹圓八拾錢
丙　銅製　金壹圓五拾錢

金の鈴を目あてにいらつしやい〳〵!!

各組生徒募集

左の時間により各組の教授を開始いたしました。志望の方は至急に御申込み下さるやうに願ひます。詳細のことは當事務所について御聞合せを願ひます

英語の組　月、水、金曜午後　自四時半至五時半　自七時半至八時半

佛語の組　木曜午後　自七時半至八時半

體操の組　火、木曜午後　自四時半至五時半

生花の組　火曜午後　自一時至五時

簿記の組　月、火、水、木、金曜午後　自四時半至五時半

料理の組　十一月より開始

大正五年十一月

神田區北神保町十四番地

東京基督教女子青年會

【電話本局五九八番】

日本基督敎女子青年會支部及其他位置

東京基督敎女子青年會	東京市神田區北神保町十四
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウヰルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校内
函館遺愛女學校青年會	北海道湯ノ川通り
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	横濱市山手町一七八
共立女學校青年會	横濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麹町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麹町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戸女學院青年會	神戸市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市内丸タピング方
德島女子青年會	德島市富田浦仲町ミスリツン方
横濱女子青年會	横濱市本町五一
捜眞女學校青年會	神奈川一本松
弘前女學校青年會	青森縣弘前市代官町
東洋英和女子學校青年會	東京市麻布鳥居坂八
梅花幼稚園保姆傳習所青年會	信州上田丸堀
横濱英和女學校青年會	横濱市山手三四四B
第一寄宿舍	東京市牛込區納戸町四五
第二寄宿舍	東京小石川區水道町二六(安藤坂)
好友園(幼稚園)	東京市小石川區金富町五七
旅行者の友事務所	東京市本郷湯島天神町一ノ二四

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方を巡廻視察し本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般々子のため諸般の紹介をなす

寄宿舎　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舎を設く將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓發につとむ

中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見惠子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子（東京）

エ、ビ、ウエスト（東京）

鈴木歌子（東京）

小此木松子（東京）

長谷川喜多子（東京）

星野愛子（東京）

フイッシヤー（東京）

イ、クレメント（東京）

志立たき子（東京）

山田千代子（横濱）

藤田貞子（横濱）

城戸順子（横濱）

廣岡淺子（大阪）

ケー、トリストラム（大阪）

エム、エフ、デントン（京都）

佐伯小糸（京都）

松田道子（京都）

エス、ソール（神戸）

上代淑子（岡山）

役員

總幹事（本部）　河井道子

同（同）　エム、エル、マシウ

書記（同）　アール、レーガン

幹事（東京）　エム、ペーヂ

同（同）　加藤高子

同（同）　イー、アル、カウフマン（歸國）

同（横濱）　エム、ペーカー（中）

事務員（本部）　松宮のぶ子

事務員（東京）　小篠端子

事務員（横濱）　鈴木貞子

旅行者の友係　林ふさ

幼稚園主任保姆　世良田勇子

幼稚園助手　古谷たまき

第一寄宿舎監　門倉ふじ

第二寄宿舎監　大西絹子

第三寄宿舎監　有田玉子

東京市神田區北神保町十□番地

日本基督教女子青年會本部

女子青年界

第十三巻第十號

十一月號

大正五年十一月一日發行

■目を醒し且祈れ。　馬太傳二十六ノ四十一

□ペテロ祈禱のために屋上に昇れり　使徒行傳十ノ九

■彼等は常に……祈禱を務む。　使徒行傳二ノ四十二

□萬人のために願告祈禱懇求感謝せよ。　提摩太前書二ノ一

■すべて求むるものは得、尋ぬるものは逢ひ、門を叩くものは啓かるべし。　路加傳十一ノ十

□まして天に在す父は求むるものに聖靈を與へざらんや。　路加傳十一ノ十三

■恒に各様の禱告と祈求を以て靈に由つて求め、且諸の聖徒のためにも愼みて此の事をなし祈りて倦まざるべし。　以弗所書六ノ十八

■□■□■

會説

協同傳道に對する女子の覺悟

河井道子

東京市の協同傳道が十月中旬よりありますので其の爲一週間の早天祈禱會が神田バプテスト中央敎會に御座いました。回一回と來會者の數が鰻昇りに上り三百人四百人五百人最終日は六百三十人と申すのでありました。雨天を朝六時に廣い東京の各所より集ると申す事丈けでも其熱心な事が察せられます。最初一週間の繼續が十日間に日延された程で御座います、又祈禱の性質に於ても日每に精煉され聖別され熱心の度向上し聖靈に充たさるゝ度が強くなりました、此祈禱會又密なる祈禱が確かに今回の協同傳道をして大成功ならしむる原動力と信じます、就ては私共女子は各地傳道の爲め聯合又は個人の祈禱を以て應援するが第一で御座いませう。又女子は實際的に如何に協同傳道に參加すべきやに就き思ふ處を述べて見ますと三ケ條になります。

第一、女子は男子と協同すべきこと、
第二、女子は女子と協同すべき事、
第三、女子は神と協同すべきこと、
等であります。

基督の敎は眞の自由といふものを人に與へるのであります。時の古今國の東西を問はず此敎程人類に自由を與へた宗敎は無く此敎程女子をして雜多の束縛より解放し眞の自由を得せしむるのは無いのであります。斯くて基督敎信徒の家庭及び社會に於ける

婦人程自由な婦人は他にありません、これが斯教の他と異なりし高潔なる婦人觀即ち「神始めて男女を造り給へり」との信仰に由來して居ります。只に是のみならず弱者なる婦人や子供を保護し敬愛する點も他の宗教の及びもつかぬ處であります。

基督御在世の時に赤心を以て奉仕して所謂協同を御助けしたのは男子のみでなく婦女子にもありました彼等は陰に人目に付かぬ處に於て疲勞給ひし主基督を慰藉したるベタニヤの姉妹の如き、又全村を主の前に導き來りしサマリヤの女の如き、自分の夫を捧げしペテロの妻、扨は二子を捧げしヨハネ、ヤコブの母等が御座います。

使徒パウロの如き大傳道師でも彼をして大使命を果さしむる爲には幾多の信仰厚き婦人の協力が多方面にありました。羅馬書の十六章に彼は十人の婦人に安否を問ふて居ります。「汝を助けしフイベ、我等の爲め、多く苦勞せしマリヤ姉妹、ルポの母は即ち我母」などと繰返してパウロは尊敬を以て感謝の言を述べて居ります。實に協同傳道は男女力を協せて始めて成功致すべきものでありまして聖書の記事にある第一の聯合祈禱會は使徒行傳一章十二節以下にあります。「凡て此人々は婦等及イエスの母マリア並イエスの兄弟と偕に心を合せて祈禱を務めたり。」斯くてペンテコステが參りましたのであります。私は之を讀んで男女協同傳道と信じて居ります。然らばとて男女職分を異にする者の如何にして協力するかと云ふに必ずしも妻が夫と共に集會に出席して衆人に傳道しなければならぬといふのではない。其方法は他に種々あるのであります即ち其良人なり子息兄弟なりが公會に出席する時に其人々が心地よく出らるゝ樣に助力し奬勵し同情してやる事も一種の協力であります。社會は男子のみで立ち行くものでもなく女子のみで立つものでもありません。何程其良人が集會に出席して共に傳道に助力したく思ひましても家に居る婦人が之に贊助する事がなければ如何して男子が充分なる働を爲す事が出來ませう。又或時

は男子が熱心の餘り狂氣地味た事をするかも知れません。實に神なきの熱心は狂氣の沙汰であります、此時に當り婦人は之をして軌道を外れざる樣注意するのも、一種の協力であります。汽車の機關車に蒸氣計り充分に備はつて居ても軌道に故障があれば脫線の恐れがあります。此危險を防ぐため私共婦人は徒らに衣裳の品評、井戸端會議の議長選擧に沒頭して居ないで大に軌道に氣を付けて鐵道工夫の職を採らうではありませんか。或は男子の方で勇氣が失せて傳道等に關し同情が不足する樣になりました時には是等の人々に活氣を與へ勇氣付けるのも陰なる婦人の働ではありますまいか。

次に女子は女同志の協同が傳道に必要で御座います。若し私共に信仰の教義に於て異なる處がありますならば救主基督に於ける信仰を異に致しますものなれば決して妥協せよとは申ません正々堂々とわが信仰を告白して信仰の道を明かにし度と思ひます。しかし其他に於ての些細な事と各教會の婦人方や、信者の女學校の教師生徒等が楊子で重箱の隅をつゝくやうなケチな冷評を止め同情と友誼とを以て一致致し度いものであります。私共の中にも信仰の極めて薄い人もあるかも知れない、これらの人々を信仰の厚い人から見れば幾分輕蔑の念も起る事でありませう、人格高き人を見馴れた目には人格低き人は醜く映ずるかも知れません。然し私共は基督の忍耐と人を信用し給ひし心を以て之に對さなければなりません。主は斯る場合如何に爲されしか決して之を斥け給はなかつたのであります。あのユダヤの汚れた社會に在つて好く忍耐され將來に希望を持たれて人間の向上を益々促かされた山上の垂訓を思ひ出でたいものであります。

私共の中には貧き者も富める者もありませうが然し何程貧しくとも私共は神より何物も與へられて居ない事はありますまい。神より授けられたる物を神の爲めに使用するのは普通の事ではありますまいか私共は徒らに衣服の競爭に憂身をやつし學問が出來

るの出來ぬのと云つて人を妬んで居る時ではありません。斯樣な些細な事に沒頭して居ないで大に男子の方々と協力一致して事に當る可きであります。

人を救ふには只では出來ません、如何しても無形有形の費用が入ります。今は徒らに不經濟だなぞと云つて居るべき時ではありません。神は罪人を救ふ爲めに其生命をさへ捨て給ふたのであります。此樣な不經濟がありませうか。

最後に私共は神と偕に働く觀念が必要であります いくら救の道の爲め費用を惜まず。又男子と共に、女子と共に一致協力致して事を爲すとしましても神と協力しない時には永久的な事は到底なす事が出來ないのは申す迄もありません。神は古今を通じて私共と共に働いて居らるゝのであります。又私共は神の働人であると自任し自重して大に人の爲めに盡さなければなりません。嘗て私の敎師に三十餘年間病褥に親しんで居られた方がありました。此婦人は常に神の爲め人の爲め非常な働きを床中でなさいました。私が此方を米國に於て訪問し御別れ致す時に私は今御別れしたならまた再び此世で御目にかゝるを得るかは分かりません」と申しましたら、先生が仰せらるゝには「今度汝が歸國すれば本國で充分に働くであらう、我は此米國で命のあらん限り働を喜びとして居るが若し神の召にて此世を去りしとの報を耳にする樣な事あつた時にも必ず悲むな、汝は此地上に於て神と共に働き我は神の御前にて天國にて大に働くならん」と仰せられました。私共は斯る覺悟を以て地にありても天に在りても神と協同して働き度いものであります。

私共他人から金を借り衣服を借りて之を返濟せざる時には罪人ではありませんか。然し人此世に生れて來て、他人に何にも負ふ處のない人はありません。使徒パウロが「我はギリシヤ人異邦人貴きもの賤き者にも負ふ處あり」との告白は正直な人ならば皆すべきであります。されば自身より身分の卑き人にでも又無學な人にでも私共は皆負ふ處があるのであり

ます。されば此等の人々に對する無形の負債は如何にして返すか、天地萬有を作り給ひし愛の神の存在を知らせ救に導く事が即ち元利を皆濟する事に當ります。私共は徒らに詰ぬ事に齷齪して居ないで出來る丈け廣い心を持ち時と金とを投じて此傳道事業を神と共に爲さん事を御薦めするのであります。

萬國女子青年會祈禱週間は來れり

河井道子

基督教では祈禱といふ事を繰り返し〳〵教へますそれで宗教雜誌に於て祈禱といふ文字を見たり、又教會の講壇から屢々祈禱に就て聞きますが、或者には餘りに耳目に馴れて居りますので何等刺戟も與へられぬのみならず、「又御定り文句」かと云つた樣に之を聽き流し又讀み返す者があります。之は非常な間違であつて、若し人が其日常生活から祈禱といふものを除去し、教會に於て此主題に就て何等教へる處がなく、信徒が之に對して冷淡に看過するといふに至りては、最早其教會及信者には何等生命が無くなつたといふ事を立證するといふても過言ではありますまい。此祈禱の眞個の意義及其心理狀態に就ては、例へば私共が一生涯を通じて研究しても其奧義を理解する事は困難にして、如何に信仰厚き人と雖、或は大學者でも恐らく之を全然會得して居る人はありますまい。或人の言葉に「祈禱の意義は恰も高き梯子の如きものにして我々は漸く第一段にしか達して居ない」とありましたが、實に其言の通りであると思ひます。祈禱の深遠にして神秘な眞理に就ては、何人と雖一朝一夕に之を理解し去る事が出

來る筈がないのであります。近頃日本に於てもフォッヂク博士の靈交錄(Meaning of Prayer)を愛讀して居らるゝ人が多いやうに見受けますが、此書は最初先生が御自身の經驗に就て御講演せられたる物を、米國女子青年會幹部員等が、最非にと請受けて世人の信仰の栞にもと出版致したるものであります。內容豐富にして興味深々適當なる敎訓、實例の引證に充滿して居て、而も至極簡易にして高等女學校程度の姉妹方にも決して困難なるものではありません。既に家庭の人となれる人、學校に敎鞭を執り、或は傳道に從事さるゝ姉妹方にも、机邊の好伴侶として一日も缺くべからざる良書で御座います。私が特に此書を會員諸姉に御推薦致す譯は、恰度此の十一月が萬國基督敎女子青年會の規定祈禱週間になつて居ります。それで每年十一月誌上に萬國の各青年會の名稱が列記され種々なる祈禱や感謝などが掲載さるゝを御覽の事と思ひます。或姉妹方の中には之を何等興味も持たずに瞥見され、煩はしき事の如くに思さるゝ方もあるでありませうが、基督信徒として友誼に眞に互に祈るといふ事がなければ深き同情も起りません、私共今日斯く無事に在るも誰かの祈りに依つて祝されて居るのであるといふを忘れず。又私共の祈も未だ見ぬ友の爲めに奬勵の一端ともなると思ひましたならば、決して對岸の火事視する事は出來ないのであります。來るべき祈禱週間には外國の日取りに從ひ祈禱されん事を希望するものであります。若し姉妹方の中にて外國に知已友人を持つ人あらば、是非葉書なり書面なりカードなりを送りて其人々の爲めに遠き東國に在りて祈禱しつゝあると書送られなば、如何許り其等の人々の爲め慰藉となる事でありませう。又他の爲めに善かれかしと祈る事を裨益するのみならず、自己の信仰上に多大の益となる事は言を俟ちません。私は屢々外國の未知の人から十一月の日附の手紙を受取ります。其等は何れも女子青年會に就て或は傳道事業に就て、或は個人の事に就て、祈禱せられし事を示して居るものであ

りまして、非常に感激又奬勵されます。私共は只に他より受けん事のみを求めて、進んで之を與ふるは嬉しい事ではありますまいか。是非とも姉妹方が外國に居らるゝ先生方、朋友知己へ祈と共に進んで文通されん事を希望致します。又學校に於ては上級生は此週間を利用し、種々なる外國の風習歴史及今日の歐洲戰亂の餘響、其他の事情に關する材料を集め之を下級生に傳へ以て若き姉妹方をして交戰國の不幸慘禍に遭遇せる婦女子に對する同情を尙一層深からしむる様に勉めらるゝは望ましい事と思ひます。祈禱と申しましても只祈るのみで其効果が擧がらねば何の役にも立ちません。

又既に御承知の通り倫敦なる萬國女子青年會の本部では毎年十一月中に於て世界中の各國各地の會員より金四錢宛の義務寄附を醵金して其事業を助けて居ります。今日日本に於ては三千人以上の會員を有して居ります。故に少なくとも金百貳參拾圓位の寄附金を負擔し之を據金して本部へ送らねばなりません、只僅に四錢宛の金にて萬國女子青年會の運轉が出來るといふ譯であります。私共女子青年會々員は此責任を負ふの名譽を有するものであります。故に姉妹方は奮て郵便切手なり或は團體としてなり御送金下さらん事を切望致す次第であります。

渡米婦人は成功しつゝありや

河井道子

今日、米國へ渡航致します日本婦人に就て考へますのに凡そ四種に大別し得られるやうに思ひます。

勿論此の外に例外は澤山あります。

第一　田舍に於て農夫或は漁夫に嫁する女子
第二　市邑の小商人勞働者に嫁する女子
第三　既婚女子
第四　未婚女子

等で御座います。第一は何も知らずに寫眞を媒介として結婚するのでありますが、概して田舍より渡米する者が多い樣に思はれます。かゝる田舍人が如何にして渡米の機會を得るかと申しまするに、例へば其村より或若者が先に渡米して居りまして、少しく彼地に於て成功する樣になりまするると、其郷里へ嫁の世話を賴んで參りまするか、或は日本へ歸る人に世話を賴みますので、其選擇に當つた者が所謂寫眞花嫁となるのであります。これ等の當選せし若年婦人の中には東京は勿論其郷里より以外の地へは未だ一歩も踏み出した事のないといふ樣な人達もあります。多くは廣島、鹿兒島、山口、福岡、熊本、和歌山、山梨等の諸縣下から出で、農業及び漁業に從事するものの子女が多いのであります。そして其の夫になる人々は如何なる人物かと申せば、始め布哇に渡航し、次で米國に渡りましたものが多う御座いまして、彼地に於て少しく事業に成功するに至りますと、其事業の擴張につれて自ら郷里の子女を迎へるので御座います。さういふ風でありますから自然其の迎へられた妻女は三府五港の地などから參りましたる樣なものは極めて稀で御座いまして、米國の漁業農業地へ參りましても、別に日本に居りました時と少しも變化なき狀態に暮して居ります。勿論服裝は洋風の眞似事の樣なのを着し、又家屋も洋風地味た小屋に住んで居りますけれども、これとてもずつと田舍へ參りますと排水の事など少しも考へず、非衞生極まる有樣に住んで居りまして悲慘に思はれた事も數々御座います。

しかし彼等の生活は悲慘であるといつて一概に批評し去る事は出來ません。加洲に於けるが如きは普通の小作人は土地を所有するを得ず、又借地は三年

限りといふが如き規定がありますから、相當な家を建築致しましても仕方がありませず、かた〳〵一寸借小屋を作りまして住んで居るといふ樣な譯なのも御座いませうし。或は二三年辛抱すれば金が出來てさうなると、錦を着て日本へ歸るのだからなどと夢をみて僅の間の辛抱であると思つて、甚麽不自由な汚穢しい所でも我慢して居らうとの決心のものもありませう。それは結構ですが、しかしさう早く成功の出來る者は一人もありません。三年が四年になり五年が七年十年と經過する中に、自然と前から住んで居る家の不便に慣れて、別に不快をも何とも感じなくなつて汚穢しい生活にも平氣で居るといふ樣な事もあります。かく永住する希望もなく常に水草を追ふて轉居すとてもいふ樣な仕末で生活して居る間は整然と家を建てゝも無爲でありますが故にかゝる小屋に住んで居るといふた樣な事情も御座いませう。故に只表面から見て一概に批評する事は出來ませぬが然し唯是等の婦人が成功して居るか否やと申しますと、どうも何と御答を致してよいか私には殆ど分かり兼ねます。然とも否とも云ひかねます。此等の婦人にして純粹の日本の極田舍より米國の田舍に入りましたものですから、別に不自由は感じないで滿足して居るかも知れませんが、しかし向上心などは殆んど皆無といふてもよろしいやうであります。四邊に何等彼等の刺戟となるものが御座いませんから彼等は進歩が出來ません。日本女子は皆手工に巧でありますから、どうやら手の通る樣な洋服の眞似の如き物を作つて着ては居りますが、食物などに至つては全然日本食でありまして、これは桑港などでは如何なる食物でも思ふが儘に得らるゝのでありますから、味噌醬油を取寄せて使用して居ります。一體農家は如何なる地にても衞生の觀念などは餘りないものでは御座いますが、殊に此等の婦人は身は米國に在りましても、日本の田舍から直に米國の田舍へ行つて米國でも直に夫の家に入つて西洋の家庭や風俗慣習などを見るの機會が御座いませんから、

折角の硝子窓にもわざ〳〵紙を張つたり、床板の如きも靴のまゝ上るのですから、土間と同樣に心得て一向掃除を致さうともせず、小供等の如きは下着を着ず、洋服の如きものは着て居ります、けれどもこれとても洗濯する事が稀で御座いますので汚穢しくてお話になりません。或時などは小供の顏に蠅が一杯たかつて居たのを見受た事も御座います。彼等の使用する牛馬などは、手が充分に届きませんから、蠅が住居の內外に群を爲して居るといふ有樣で、其不潔さは名狀すべからざるもので御座います。日本に居ります時にはたとへ何事も知らぬとは申しましても、其近くには親類の者もありませうし、又舅姑も御座まして、幾分か田舍の若い娘も傍の人から敎へらるゝ事も御座いませうが、米國へ參りましては全く放任されたものになつて、傍から敎へる人も御座いません、其の上に手不足でありますので、夫妻共に畑に出ます時には、家政育兒は全く放棄されてしまつて居ります。

此の夫婦野外の共稼といふ事は米國人の最も嫌厭する處で御座いまして。如何に田畑を耕す事に巧になりましても、家政育兒を怠つて居りましては、到底米國に同化する事は不可能で御座います。米國人の農家の妻女は多く田畠に鍬を手にしたと申す力仕事は稀でありまして、家で養鷄や養蜂又はバターの製造などをして、家の廻りの花や野菜などの世話をしつゝ家政をとつて子供への責任を果して居ります然るに日本婦人は內部の仕事よりも一般に畑仕事を喜び、好んで畑に出づるといふやうな有樣であります。勿論家に居て面倒な裁縫や小供の世話をするよりも、畑に出でて居りました方が幾分氣樂では御座いませうが、しかし斯の如き有樣にある事が米國の田舍に於て我が同胞姉妹方の發展する事の出來ない一大原因であります。彼等は米國の事情を全く辨へません。否な知るべき機會がなくて又知らんとするの欲望も御座いません。言語が通じませんから西洋人と言葉を交す事も御座いません。又買物などは大

抵其の夫に頼みまして殆んど英語を知るの必要を感じないで居ります。たとへ折角親切なる西洋婦人がありまして、訪問する様な事が御座いましても、却つて之を迷惑に思ひ、又此等の地方には大概教會がありまして、日本人の牧師が傳道に從事致して居りまして、婦人會などを組織しましても、忙しいのやら面倒いのやらで、出席する婦人は極めて稀で御座います。新聞雜誌等の如きものを少しでも目を通して居るのは餘程感心な方です。しかも其の言語の野卑なる事、實に甚しく思れます。嘗て青山女學院の卒業生の一人が田舍に居りまして、病氣にかゝりました時に、近邊の子供等を集めて御伽噺をして聞かせた事がありました。其時に桃太郎の黍團子のお話を致しましても。彼等には一向通ぜず、「キビダンゴテバ、ドッタラモンケー」と申しまして、耳に入れもしなかつたとの事です。其兩親及近隣の者が無頓着な極めて野卑なる言を使つて居ます故に小供等はそれを眞似て、聞いて居りましても赤面致す様な事を平氣で申して居ります。此等の子供が學校へ參る様になりますと、西洋の小供達と一しよに參りますのですから、西洋の親達が困るのも最もだと云はねばなりませぬ。

米國に於きましては如何なる下流社會の子供でも腰の廻りが見えるといふ様な事は絶對に御座いません。然るに日本人に於ては此等の事は一向無頓着で御座いまして誠に見苦しう御座います。西洋人は子供等に絹とか高價な布地は決して用ゐません、常に木綿を使用して居りましたが、しかし常に洗濯を致して垢の附いて居ない様にしてありますから、見苦しい事は決してありません。日本人は洗濯を屢々致しませんので、實に不潔で稀に洗濯を致しましても火熨斗の掛け方を心得ないもので御座いますから誠に見苦しう御座います。

是等の子供は學校にて英語が分かる様になりますと、英語の出來ない母親達は常に子供等から輕蔑されて居ります。此等の婦人は日本に居る時よりも寧

ろ退歩したと申しましても過言では御座いますまい。中には高等教育を受けて或女學校に教鞭を執つた事のある婦人も是等の婦人の中に稀に見掛けますが、とてもありし昔は想像もつかない程現在は智識や修養の點に於て退歩して居られます。

以上は私は米國に參りまして實際を視察したまゝを申上げましたので御座いますが、是によつて我國から渡米した婦人が如何なる境遇に、又如何な狀態に如何に其の日を過して居るかを考へて見ていたゞきたいと思ひます。そして同時に此の同胞姉妹のために私共は何をなすべきかを思ひめぐらしていたゞきたいと存じます。

信仰第一
勇氣第二
安全第三

金四錢の使途

凡て何でも僅かでそれだけでは何の用にも立たないやうな物でも、それが集まれば非常な助けとなる例はいくらもありますが、其の中で私共が每年一度の義務として祈禱週間に出金する女子青年會負擔金は實に世界の人類に幸福を與へる基となるのであります、即ち六十七萬の萬國女子青年會員が此祈禱週に際して醵金する筈になつて居る、一人に付金四錢づゝの負擔金は倫敦の本部に於ける事務費幹事の俸給、機關雜誌或は其他の出版費に充てられます。實に我等の細微なる出金が此等の大きな事業の基礎の一となつたのであります。何卒我が全國の女子青年會員諸姉!!! 此世界的事業に與かるの好機を利用し揮つて右義務金の出捐を希ひます。右負擔金は各支部にて御纏めの上當本部へ御屆け下されれ又支部なき地方の方々は直接當本部へ郵券にて御送り下さるやうにお願ひ申上ます。

東京市神田區北神保町一四
日本基督教女子青年會本部
振替口座東京貳參七貳番

客の待遇

牧師　植村正久

『イエス二人の弟子を遣さんとして之に曰ひけるは京城に往け、さらば水を盛りたる瓶を携ろ人に遇ふべし之に從へ。その入るところの家の主人に師いふ我弟子と偕に逾越を食すべき客房は安くに在るやと曰へ。』（馬可傳十四章十三節―十四章）

右の聖句により我々客扱ひの話、主振りをして客を饗應する心得方を考へたい。主エスは第一客を餘程重んぜられた方で、大變客あつかいのよかつた人である。其證據は馬太傳二十五章の三十五節に「蓋なんぢらが飢し時われに食はせ渇し時我に飲せ旅せし時われを宿らせ、云々」とあるのでも分る。これは客に對する懇なる心持ちを表はして居るものである。而してエスはこれらを非常に喜んで受けて居られる。斯くエスは他人より向けられた厚意をよく受けられたのみならずエス自身が實地に行はれた事、又自ら實行せられた事を考へて御覽なさい。或る時ヨハネとアンデレが未だエスの弟子にならぬ以前、洗禮のヨハネからエスの事を聞いて、エスの後を追ふて來た時。エスは彼等を顧みて「汝等何を求むるや」と問はれた。彼等は答へて「ラビ何處に宿るや」とお尋ねすると、エスはこれに對し「來りて見よ」と仰せられて、彼等はエスの宿り給ふ處につれて行かれた。而してこの二人の者は後々まで其の日の事一伍始終を記憶し、其時間までもよく忘れないで居たのであるから餘程深い印象を與へられたものと見える。われ〱一寸した記事でもこれを讀む時はエスの御樣子が手に取る樣に見える。又或る時は荒野の奥に寂漠たる處、何の設けもない處に青天井を戴

き線の草を敷物として、しかも五千人と云ふ大勢の饗應をなされた。まあ其主人振りの實に熾んなる、懇ろなる事、譬へやうもない程である。又或る時はパリサイ人シモンと云ふ人の家に招待を受けられた時、どうも先方の接待振りが好くない、甚だ禮を盡さぬ冷淡極まつた仕方である。其の時エスがシモンに向つて云はるゝに、『汝この女を見るか、我汝の家に入るに汝は我足に水を給へず此の婦は涙にて我足を濡し首の髪をもて拭へり、……此婦の多の罪は赦れたり之に因り其愛も亦多きなり……』(路加傳七章四十四―四十七節)斯く云つてエスは婦人を賞讃された。シモンの客扱ひの惡しき事がエスの胸に餘程強く響いた、而して之れは確かにシモンの饗應振りに對して手強い批評をされたのである。又路加傳十章の三十八節を讀めば『かれら路を行ける時にエス一郷に入りければマルタと云へる婦これを迎へて自己の家に入りぬ云々』と記してある、これはベタニヤのマリヤの家庭に於て饗應を受けられた時主人振りの批評をなさつた處である、力一ぱいエスを樂しませやうと思つて一生懸命になつて居るマルタも感心であるが、妹のマリヤは姉マルタの物質的なるに反し、精神的の事に重きを置き、一方の方には全く不關焉と云ふのではないが、其方は好い加減になして置き、重き方を採つてエスの足下に座し、其お話を聞いた。これは大した饗應振りである。聖書には「然と無て叶ふまじき者は一なり、」とあるが之れは「無くて叶ふまじき者は多からず、一つにても足れり」と云つた方がよき譯語である。即ちマリヤはよき方を選んだとエスは云つて居られる。此處で考へればエスは如何なる事を好まれるか、其御樣子が眼のあたりに見える。そしてわれ〳〵はこれより敎へられる處が多い。又これはエスが自ら客を愛し、これをもてなされたか、又斯る場合に如何なる感想を持つて居られたかと云ふ事を示し、大いなる敎訓を與へて居られる。エスは其の友の家を訪問せられるやうに屢々吾々の家を訪ねられる、この御訪問の

事は默示錄三章二十節を見れば記してある。これはエスが人の家を訪問せらるゝ時の話であるが、このエスを迎へ入るれば、中に入りて如何にも樂しさうに、其の饗應を受け。又自らもてなしをされる。此話によれば客に來たエスが主人となりて、これを迎へた主人が客の樣に遂にエスから大した御馳走を受ける。エスは斯くの如く度々吾々の靈魂を訪問せられるのである。皆樣はホーマン、ハントの世界の光と云ふ油繪を見らるゝであろう、あの油繪の中には外は雜草の茫々と生じてをる、如何に恐ろしいか計り知られない、且これ迄明けた事のない戶を叩いて居る王者、即ち威德を備へたキリストの姿が畫がかれて居るが、此の繪の如くにエスはしげ／＼來つて吾々の靈魂の戶を叩き給ふのである。是れについて思ひ出す事はかの稅吏ザーカイの話である、彼れは慾張りであつたであらう、然しかれは一度エスを見たいものと思つて上から見て居ると、エスは上を向いて、下に下りよ我れ今日汝の家に宿らんと云ひたまうた、之を聞いた彼れは大いに喜び、非常な光榮として、一家親族凡てを呼び集めて宴會を開いた。隨分種々の批評もあつたがエスはかまはず、此のザーカイの招待を受けられた、ザーカイは此宴會の席上に立つて『我れ今日財產の半ばを貧しき者に與ふべし』云々と云つたと聖書に記されて居る。これ大いなる饗應振りである。然して遂にかれと其一家は救はるゝ事が出來た。又是れに類似せる話に、かの稅吏マタイが大なる思ひきつた宴會を開いた話がある。彼れは從來の汚れたきたない生活から淸い生活にうつり、全く生れ變つた今日、これまで交りをして居た知已朋友等をも、どうかして光を持つてこれを導き度いものと思ひ、斯く大いなる饗應をふるまつたのである。

馬可傳十四章十三節以下を見れば非常に愉快な記事が載つて居る、即ち『エスが二人の弟子を遣さんとしてこれに曰いけるは京城に往け、さらば水を盛たる瓶をもてる人に遇ふべし之に從へ、その入ると

ころの家の主人に師いふ我弟子と偕に逾越を食すべき客房は安に在るやと曰へ、然れば彼陳設たる大いなる樓房を爾曹に示すべし我等のために其處に備へよ。」と云ふ句である。この主人と云ふのは無名の人である。誰であらうか、或は云ふ多分マカであらうと。隨分富んだ人らしい。既に寡婦であつたがコマの母といふは富める人で大きな家を持つて居たらしい。由つてエスが此處に客に行かれたのである。然して此無名の人は清潔な綺麗な二階座敷をエスに差し上げた、此れは無名の人の寄附である。勿論この無名の人がマカであらうとは推測に過ぎない。エオル、チャイムと云ふ人はエス傳を書いて居るが、かれはユダヤ人の習慣風俗を熟知して居たので實に面白い暗示に富んだ說明をして居る。彼れは此處を下の如く說明して居る。即ち此處にある客座敷と云ふ言葉は日本語で云へば大變立派な室の樣に思はれるが、原語では大いに相違して居る。即ち日本で云へば百姓家に入れば土間があつて其一方は玄關で、一方は爐になつて居るが、客座敷とはこの土間の樣なものである。人がくれば草鞋を脫ぎ荷物を下ろす處である。なほ上品に云へば玄關位な處であつて、決して立派な座敷ではない。一寸言へば修業者か俳諧師が田舍に行き宿るようなものである。又言ひ換へれば食客などを置く處である。エスは一體始めに產れらるゝ時からその樣な處に產れられたのであるエスの誕生は書生部屋のやうな處で、土間の樣な處であつたのである。エスは聖晩餐の宴を張らるゝ時に何でもいゝ一寸した書生部屋か家の草鞋を脫ぐ處でもいゝ、ほんの間に合せの膝を入るゝ處でいゝから搜して來いと云はれたのである。日本文にはないが原文には此處に「我が」と云ふ言葉がある、この「我が」と云ふのが面白いと彼れは云つて居る。其の時は恰度皆人が田舍から來る時で大變な客である。此處の家にも彼處の家にも客で充滿して居たに違ない此無名の人の家にも客が他にもあつたであらうが、今度は我儘ではあるが、我々のみの、他人の混じな

い座敷なら如何なる處でもいゝと云はれたのである是れでエスの平常が如何に質朴なりしかがよくわかる「無くてならぬものは一つなり」と言つて居られるが、しかも此最後の晩餐の時にもエスはかまわなかつた、然るに此無名の人はそれではこの土間を差上げませうとは言はず、かれは既に準備の整つた立派な二階座敷に案內したのである。これはエスの始めの所望とは大した相違である。此處が誠に面白い自分の持つて居る中で一番よい處を差し上げるので唯求められた註文に應ずるのみでない、土間でもいゝからと云ふのを、其れにして置くのではない、準備の整ふた大きな座敷を差し上げたのである。

ある集會でマタイ傳五章、四十一節に記されて居る、第二の一哩と云ふ話をしたのであるが、徵兵により募られて一哩丈これをかついで行けと言はれて不精々々に擔いで行くのでは價値がない。自ら進んで、强いられるのではなく、信じて行く第二の一哩が貴いのである。學問でもさうである。明日も此處を問はるれば答へる事が出來ないから、豫習をして置かう、もう之れで澤山だから止めると云ふ樣な人は決して眞の學者では無い。例ひ强られなくとも困らなくとも、多くの勉强をする人は學問が面白くなり眞の學者となるのである。第二の一哩を步く。註文された事丈はもうなし遂げたからもう免ぜられたい、さう言ふ事では眞の信仰とは言はれない。キリスト敎の信仰ではない、義理一邊の事では良くない如何にしても其れ以上の註文されない第二の一哩、之れは步るかなくとも先方では別段不快にも思はないだらうが、然しこの一哩を一生懸命に懇に步く。此處に眞の立派な點が存在するのである。此の無名の士の話によつて、かれはエスの質素な御註文に唯應ずるのみでなく、十分準備の出來上つた二階座敷を差し上げたのである。之れ眞にエスを饗應すべき方法である。吾々も斯くの如くにしなければならない、信仰の事も、もう是れ位でよいと手加減をする樣では十分の發達は遂げられない。

一々枚擧はしないが、色々エスに對して平常饗應し事へる其主人振を考へて見るに、何時も最初の一哩それも澁々で未だ半哩も行かぬ中に、全くずるけて居る、又漸くの事で歩き出しても最初の一哩さへすまさないで、未だ第二哩目には行きつかないと云ふ有樣である、或るひは又少しにても猶早く少なく其負擔をねぎらうとしてる事が屢々である。又繰り返して云へばかの無名の人の取つた客の饗應振は土間を註文されたから、さあ之れをと土間を差し出すのでなく、大いなるしかも諸準備整つた二階座敷を與へる方法である。先づ最初の一哩でも若し出來るものなら遁れ度い、出來なければ一哩丈漸く歩くと云ふのでは何の價値もない。此の晩餐はエスが與へられたものであるが、然し之れを逆にして、吾々がエスをお招きする、これを御迎へする時、如何にすべきであるか、エスの復活後失望せる二人の弟子がエマオと云ふ村に行つた時エスはこの二人の者に逢つて聖書を開いて敎へられた、彼れらがこの敎へられた人のエスなる事を知つた時、其の心は燃えるやうであつた、然してこの二人の者はエスに止まられん事を丁寧に願つたのである。それならばと云ふのでエスは彼等と共に止まられたが、吾々も客の訪問せる時には斯くの如く衷心より歡迎し饗應する事が大切である。吾々がエスを御招きする時、如何になすべきであるか、又第二の一哩は既に吾々の眼前に近いて居るか如何か。

種と言葉

和居笑子

種のことを考へて見ますと、それは種々樣々で御座いまして、大きなのもあれば小さいのもあり、又或るものは栗のやうに毬がありまして其の中に出來るのもありますが、或るものは豌豆などのやうに莢の中に出來るのもあります。又綿のやうに柔い間に出來るのもあれば、薊などのやうに輕く飛ぶのもあ

りますし又菓實のやうに肉のうちに出來るのもあります。實に千差萬別で御座いますが、しかし其の中に生命があるといふことは、どれでも同じで御座います。故に一旦それを地に播きますならば芽を出して生え出で漸次に生長することは、どの種でも皆同じことで御座います。

私はこれと聯想して感ずることは、私共の思想又は言葉で御座います。これは恰度同じやうであります。其の現象はいろ〳〵に違ひましても、其の中には一の生命がありまして、それを人の心の畑に播きますならば、恰度種が生えるやうに芽を出して段々生長するもので御座います。假令ば一人の青年がつまらない小説や雜誌などを讀むと、それが直ぐに其の心の畑に播き付けられて、面白くない結果が出來るのであります。そして種は更に増殖するものでありまして、一粒の僅かなものでも其の結果は五十倍にも百倍にもなるので御座います。あの日まはりといふ花の種は一つの花でも四千粒位の種になるといひます。又薊は一夏だけて二萬四千ほどの増加をすると申します。又唐蜀黍の種の出來た一房を成熟して翌日直に播種するやうにして行けば、五年休みなく繼續すれば、此の全世界の陸上を寸地なく蔽ふことが出來、十年經てば地球上ばかりでなく、すべての遊星にも播きふさぐことが出來るほどの澤山になるといふ話で御座います。實に驚くべきものではありませんか。私共の言葉や思想も矢張り同じことであります。一度心の畑に播きますならば、それは單に其の人の心に生えるばかりでなく、それがまた次の人〳〵と播かれて、段々多くの人に及ぼして言ふべからざる種の結果となるのであります。それは善いことでも惡いことでも同じことで御座います。昔から「惡事千里」など申しますが、矢張り此の意味でありまして、更らに其の感化を思ふときには一粒の種の如き僅の言葉でも決して輕々しくすべき筈ではないと思ひます。

それから又、其の種の生命の繼續といふことを考

へて見ますと、それは實に何時まで續くか分らないほど長いものであります。御承知のやうに埃及では昔王様が死ぬると、其の身體に藥を塗つて繃帶をしたので、今でもミイラとなつて殘つて居るやうな次第ですが、其の繃帶の間に入つて居た麥の種を今日取出して播くと、昨年採取した麥種を播いたのと同じやうに生え出て生長するといふことです。又先年英國人が井戸を掘つた時に三十尺位の地下から一人の死體を掘出しました、所が其の死體と共に古い貨幣があつて、それによつて調べて見ると、其の死體は千七百年位前のものであらうといふ鑑定がつきましたさうです。そして其の死體を解剖して見ましたら、其の胃腑から莓の種が出て來ました。多分此の人は何か偶然の出來事で死んだとか、食後間もなく殺されたとかいふことであつたらうと推測されるのであります。そして其の胃の中から出て來た莓の種を畑に播きました處が、立派に生え出て、其の年に播いた新しい種と同樣の結實をしたといふことであります。さうすると一千七百年前の莓は一千七百年後まで生きて居たといふことになります。

さうして見ると、種の生命は永久に亡びないものかも知れません。そして私共の思想や言葉のことを考へて見ると如何であるかといへば、矢張り同じことで御座いまして、實に永遠に續くもので御座います。考へて見ますと、二千年三千年の昔に言はれた思想や言葉が、今日に於てもなほ活々として多くの人々を敎導感化して居ることは私共の日々に實見して居る所であります。古昔の大聖賢人の言つたことは皆さうで御座います。單に其の言葉や思想が亡びないで殘つて居るばかりでなく更に增殖せられつゝあるので御座います。私共はとかく思慮なくして空しい言葉を語ることが多いので御座いますが、實にこれは疎かにすべきものではありません。其の言葉が一旦口を離れて後は、もう何時までも亡びないで永久に殘るのであります。實に私共の尊ぶべきもの、注意すべきもの、又愼むべきものは、此の言葉と、言葉の元なる思想ではありますまいか。どうか、私共は常に淸き美しき思想を養ふて、人と世の爲めの言葉を吐いて、世の福となり惡感化を及ぼすやうなことのないやうに留意すべきであると存じます。

萬國基督敎女子靑年會祈禱週祈禱目錄

大正五年十一月(日曜)ヨリ同十八日(土曜)マデ

主題「勝利者」

格言「凡そ神に由て生るゝ者は世に勝つ我儕(われら)をして世に勝しむる者は我儕が信なり」

「約翰第一書第五章四節」

十一月十二日(日曜)

「我儕の勝利者エスキリスト」

(馬太傳四ノ一—十一、十二ノ二十二—三〇
約翰傳十六ノ三十三默示錄六ノ二參照)

同十三日(月曜日) 女子靑年本部の爲

「敵」

(エペソ六ノ十二耶利米亞十七ノ九、馬太傳十五ノ十八—
十九、以弗所書二ノ一—三雅各書一ノ十三—十五參照)

亞弗利加、(南亞弗利加、埃及、チユニス、ナイロ
ビ及び東西亞弗利加)

同十四日(火曜日)

「勝利を得るの要件」

(路加傳十五ノ十一—二十四、哥林多後書六ノ十四、七ノ二
馬可八ノ三十四—三十七、約翰十二ノ二十四、二十五參照)

亞米利加、(カナダ、合衆國、南アメリカ、西印度
諸島)

同十五日(水曜日)

「勝利の承認」

(以弗所一ノ七、哥林多後書五ノ十四—十九哥羅西書一ノ十
三—十四、約翰傳一ノ七—九、同十五ノ四—六、羅馬書八ノ
三十五—三十九、約翰一書一ノ七—九、加拉太二ノ二〇參照)

亞細亞、(支那、日本、印度)

同十六日(木曜日)

「眞の勝利を得る助」

(以弗所書六ノ十三—十八、哥林多後書六ノ七羅馬書十三ノ
十二、帖撒羅尼迦前書五ノ八、希伯來書四ノ十二、參照)

オーストレリヤ

同十七日(金曜日)

「勝利の祝福」

(約翰十四ノ二十七、馬太傳十一ノ二十八—三〇、加拉太五ノ二
十二—二十三、默示錄三ノ二〇—二十一同三ノ五、同二十一
ノ六—七、哥林多後書三ノ二三、馬傳十ノ四十三—四十五參照)

歐羅巴、(露西亞、イタリー、アゼンス、マルタ、ブ
ルガリヤ)

同十八日(土曜日)

「完全なる勝利」

(哥林多前書十五ノ二〇—二十八、腓立比書二ノ九十一、
提摩太後書二ノ十一—十二、默示錄五ノ十一—十四、同
七ノ九—十七、同十二ノ十〇十一參照)

歐羅巴、(和蘭、瑞典、諾威、佛蘭西、ポルトガル、
英吉利、フインランド、瑞西、デンマーク、獨逸、
オーストリヤ、ハンガリー)

交戰國の面形（上）

あい子

▲●●●●●●●●●●●●●白國ライム市三鞭酒屋穴倉に於ける學校

「どうぞお氣をつけ下さい」

眩い太陽の光から比較的暗い地下室へ入つてまゐりますのですから、兩側に燈火は點いて居りましても始の中は私共の目は少しも其の邊の識別がつきません。私共は大きな地下室の八幡知らずへ迷ひこんだやうですが、しかし話聲や子供の聲などが致します所を以て見れば、此の地下界にも人が住んで居ると見えます。一體これは何處なんでせうと思ふて居るうちに私共は今迄見かけたこともない奇妙極まる學校の中に居るのであると氣がつきました。是は白耳義國ライム市に在る學校なので御座います。私共を案内してくれる活氣ある顏色の女の子にさへ此の國の勇敢な婦人等が彼等の愛する此の有名な都市が敵軍に破壞された苦痛と、それに對する忍耐の痕があらはれて居ます。三鞭酒屋の此の廣い穴倉が住居ともなり學校ともなり、其他町のために種々の働のために使用されまして、此處で敎師等は變則な周圍の中に在つても、尙子供等の心を正當な道に導かんとして努力して居るのであります。

▲●●●●●●●●●●●●佛國に於て農業及商業に從事する女子

塹濠を通つてもと來し道に引返しますと、玆は平原でありまして、砲銃の影が映らず筒音の響に脅かされない田野は、好く耕作され、畑はよく實つて佛蘭西の農家の喜を聯想させる。けれども見渡す所、屈强な人は一人も田畑に働いて居るのを見掛けせん婦女子や老人の手で此の豐穰な畑の收獲を得るまでに耕作したのであります、良く手入の出來て居る一對の肥馬を先にして、敏捷に廻轉する鋤を挽かせて居るのは誰でせう。端正な畝は短い袴に泥にまみれた靴をはいて働く、年若の女の手に成つたのであり

ます。早春の霙降る寒空に彼等は隣の畑も同様に耕しました。

再び町に引返して銀行の窓から内を覗ふと、瀟洒な服装に口髭のある、氣のきいた行員は一人も見えません。其の代りは所謂佛蘭西流に頭の先から足の先まで垢ぬけのした妙齢の女子ばかりです。

もう一つは敵味方が各自相對峙して堀築いた堡壘を通過した後方の光景でありました。勿論其處は荒廢して居ります。戰神が荒々しい赤馬に跨つて、太刀振りかざして、火花を散らして戰つた其の跡には凄寥慘憺絶望の外、何ものも殘つては居りません。

今は夜であります。私共はなほも煙に燃へ殘る灰を踏んでベルシヤムの村を通つて居ります。ベルシヤ、ポーランド、セルビヤの平素は平和な生活に慣れた農民達が、俄に慘憺な戰爭に引出された其の家庭の事共を回想して見ると、轉た慨嘆の情にむせばずには居られません。私共は其處にも彼處にも有りし事實を語る悲慘極まる證跡を見ます。

▲白耳義の戰死者の孤兒獨兵の養子となる

是は死の谷であります。森とした靜な間から子供の泣聲が聞えます。是は一人の子供が晝間遊びに出掛けて、歸つて見れば、家も兩親も、友達も學校朋輩も影さへ見えず、誰一人も居りません。何處へ行つたのでせう。神より外に知る人はなく、大概は死して征服者の眼の前で靈になつて飛揚して居るのでせう。其の子供の泣聲は私共以外の人の耳にも入りましたと見えて、一人の逞しい獨逸兵が參りまして泣叫んで居る子供を不器用な手つきで慰めながら、兩親を失つた代りに何か償をしてやらうと申しました。私共は其の兵士が賜暇を乞ふて、それが許可されると、其の孤兒を兵士が自身で、其の妻の許に連れて歸つて自分の子として養育するやうにしたといふことを聞きました。誠に親切心といふものは、國の何處を問はず嚴めしい軍服の下にも輝いで居るもので御座います。帝王たるものが戰爭の慘事を演ぜ

ないでは統御が出來ないとは抑も何たる事でありませう。

▲●●●●●●●●●●●●●英國軍需品製造所及藥品供給所に於ける女子

私共は海峽を渡つて英國に參ります。この島では婦女子の生活は如何なるものでありませう。あなたがたは此地の上流社會の安逸に耽る娘御達を見たいと思召しますか。かゝる種類の人々は一九一四年の冬開戰以來全く其の影を消して仕舞ました。若き女工が晝夜交代での働きも休息前の運動の如き活氣を以て仕事に勵んで居ります。機械工場にては此二年前迄は女子は雇入れなかつたのですが、今日に於ては最良の事務員を要する調査室を始め、順次に其係員に婦人を雇入れて居ます。寧ろ男子より一層の好成績を擧げて居ると工場長が認めて居ります。

▲●●●●●●●●露國皇后及王妃の傷病兵愛護

私共が町を通過致しました時に屢々寫眞書などで見ます頭被をした姿を見掛けます。此等の婦人は看護婦ではありません、若し看護婦であるとしても彼等は其間暇を利用して働いて居ります時の姿であります。此等の婦人等は病院の藥品供給所に參り外科用衣、繃帶、繃帶の添衣其他の用品供給の手傳をして居ります。棚といふ棚には小包が一杯に積まれてあつて、此等の小包は運輸室に送られ、英、佛國赤十字や或は今日に於ては如何なる町にも置かれてある衞戍病院に轉送されるのであります。凡て婦女子は其心に其手に成る繃帶衣服等は戰地に苦闘せる自國の父子兄弟に使用せらるゝものなるを思ひ大層愉快に働いて居りまして其兵士等の爲めに僅でも役に立つ事をなすと云ふことを非常な喜びとして居ります。或女生徒は學校よりの歸途吸收繃帶用として水蘚苔を採集して居ります。此等は衞生隊の爲めになす軍要品製造所であります。

▲●●●●●●伊國ミランの育兒院

おゝ此麗かな伊太利の日光! 戰爭の黑雲が如何にして此美しき空を被ひ隱すなどの事が出來るでせう。何處へ參りましても婦女子と子供が苦難せるを

見受けます。第一に目に止まる活畫は娘等の幼兒等を慰めて居る事であります。大きな潤のある眼をした小兒等の收容されて居る育兒院、誰か、この育兒院に保姆となるを厭ふ人がありませう。此等の小兒の父は氷河を渡り、山嶽を越えて、惡戰苦鬪をして居るのであります。其中には生きて再び歸らない者も御座います。母親達は其僅少なる扶持金の補充をする爲めに其日〳〵を稼がねばなりません。女子青年會員は此育兒院に小兒等の世話をして困難の時にも愉快に遊ばせ樣として骨折つて居ります。嘻々として其膝に纒りし時に嘗て主が祝し給ひし可憐なる小兒等を愛護する務は小なるものではないことを思はぬものがありませう。

アシロマーの修養會

長谷川　多代子

光風明媚白砂青松の仙境北加アシロマに於ける太平洋沿岸大學女學生の爲めの米國女子青年會夏期修養會は去る八月一日より十日間眼覺しく開かれて愉快に名殘惜しく所謂修養會精神を深く私共の胸に留めて閉ぢられました。本年此會に連りし總數は百八十餘名で此中日本人は東部大學出身で目出度歸期の途に就かれた渡邊百合子さんと羅府女子青年會より橋立さん姉妹と私とそれから岩澤とき子さんにも僅兩三日でも御一緒でしたのは非常にうれしく都合併せて五名と數へられ、それにミス、エリスとミスタッピングも加はつて益々氣強く然も河井道子先生が一日丈でも御名殘りに御出になり滿堂を感に打たせた力ある講話をなさいました事は私共日本人の肩幅を廣めた次第で御座いました。只一つの遺憾に存じました事は私共の姉妹會なる桑港の女子青年會が丁度河井先生の大講演會準備の爲め多忙の最中で、どなたも御出でになれなかつた事で御座いました。然し鬼に笑はれても又來年御目にかゝれる事を今から希望して居ります。

岩に碎くる浪の音や松原渡る風の聲など去年に變

らず不斷の樂を奏して私共を送迎するも嬉く、知るも知らぬも暫時にして十年の友となり玆に神秘美妙の自然と宗教とが合致して一の大きな理想的基督教家族を形成するに至るのは此一天地獨特の現象で御座いませう、實際溫き友情を味ふには此處に優る處は無く全く外國人の中に居る樣な氣は少しも致しません。友情と申せば私共日本人が六名の支那女學生と特別の親交を結び日支親善を實現したのも時にとつて大なる喜びで御座いましたそれから指導者各自の勝れた人格然もそれが一人〳〵に異なつた色彩を放ち何れに接するも新らしく有益で其の學生をお皆一々に其容貌の異る如く性格を異にしながら何れも宗教の感化で何か特色を表はし只お互に笑顏をかはして語る間に大いなる教訓を受け人に接して之を信ずれば必ず善性を見出し得る比ひなき神技を感じ人生至る處に青山有る如く人至る處に友ある事を自覺して生きた學問を致す事が出來ましたのを深く感謝して居ります。亦其友情が通一遍の御世辭的の物でなく誠實なる基督教精神に依つて結び附けられるのを強く感じる愉快さはまた格別で御座います、每日午前中は禮拜後聖書研究傳道研究など專ら精神修養に過ごし午後は安靜時間が過ぎるとテニス、バスケツトボール、レツトボール、ベースボール、名所探險、海水浴、何でもかでも體育娛樂に餘念なく大に晩餐の食慾を增す事に忙しく、夕暮は美はしき入日の海に入るを枝振面白き松越しに眺めて、「三保が崎月淸見潟富士の雪なれや春の曙た〻び波も松風も長榮なる浦の有樣……」と羽衣の一曲口ずさみ伯樂漁夫ならずとも天女の羽衣何處にと尋ね度き心地しつ〻食堂に入り妙なる音樂に連れて靜けき夕の禮拜に心を澄ましそれより數分間代表者の會合に感謝祈禱を捧げ、かくて互に胸襟を開きて其日の感想を語り合ひて後樂しく露繁き砂地を踏んで塒に急ぎ十時の消燈に間に合ふやう笑ひ興じつ〻床に就き翌朝六時半まで極樂往生で浪の音も夢の中に消えて行くやう……之れが修養會十日間の日課で此間に大家の色々

有益なる講演も承り飛切り無比の隠藝にお腹の皮をよる事もあり、又は焚火をからみつゝ海邊夕食に舌皷打つ事もあり斯くして有益に無邪氣に此十日間は特別光陰の流れ早きやう思はれて夢の間に過しましたが然し月日の經るまゝになつかしき思出はいや增して此修養會の印象は私共の胸裡に一幅の理想畫を深く刻して永久に殘る事で御座いませう。

バザー（慈善市）の記

神の惠み！　私等の眞の心が神の御旨に適つたのだ！　私共はどうしてもかう叫ばずには居られなかつた。幾日となく降り續いた雨は其前の日迄もピチヨ〳〵として止うともしなかつた。

始めて計畫してこゝに五ヶ月或る時は果して之が成功しやうか、いや果して豫定通りの期日に開く事が出來るであらうかと思ふ不安さへ私共の胸に漂ふて居たのである。然し祈らう、假令力が足らずとももし目的が正しくあつたなら必らず神は我々に力を與へ給ふ私共は確固とした信念を抱いて其準備に取りかゝつた。暑い暑い夏の間も少しの暇を惜しみつゝ準備に心を碎いて居た。あちらからこちらからポツ〳〵集つて來る美しい同情の賜物が殖へて行くのを眺めては一同勇んで居たのである。どうかと思つた入場劵の賣れ行きも羽がはえた樣に飛んで行つた月日は夢の樣に流れて、愈其前日となつた。雨が降つて居る、もし明日も此雨であつたなら折角の計畫はガラリとはづれて終ふ物を。どうにかしてお天氣にしたい。桃色の紙で裝飾品を作つて居る間も其處此處の飾りつけに忙がしい間も絶えず放れぬ一事であつた。夕方になつても晴れさうにも思はれない、これでは到底天氣はだめだらう。

いよ〳〵其當日は來た。あきらめて居たお天氣はカラリと變つて秋の空は高く青々と澄んで居た。上氣する樣な小春日和。まあ大なる祝福を受けた此の日は希望の光をあか〳〵と窓硝子や白いカーテンに

なげて居た。百萬騎の加勢を得たより嬉しかつた。私共は賣店の飾り附けに踊り上つた。

先下の體操室は左手が魚釣り右手がお茶の接待、眞中は餘興場と變つた。二階の事務所は其朝鎌倉の白井樣からわざ〳〵送つて下さつた大輪ダリヤによつて忽ち花壇と化して終つた。應接室はすつかり唐紙が外づされて窓際に添ふて、くるりと店が出された。右の端から安藤坂寄宿舍、英學塾、聖書の組の店次がカード、西洋小間物、紫水晶の店、次に並んで居たのが會員及び英語の組の店、神田寄宿舍及びお菓子の店といふ順であつた。寄宿舍の食堂は何時の間にか甘黨を引きつけるお汁粉屋になつて居た。場所も狹しと思はれる程物品は豐富であつた。袋物、玩具類、實用品を始めとして其品數を上げるにいとまもない程であつた。其半分以上は寄附からなつて居る事を思へば尚さらに奥床しく思ふのである。三階には納戸町寄宿舍の玩具店及びコヽア紅茶のお店がしつらへてあつた。奇拔な廣告はそこ〳〵に貼られる。縱橫につられた細紐には樣々の物が釣下げられて人々の目を引いた。

ドンがドンと鳴ると共に早や入場者はドン〳〵詰かけ始めた。係の者は大周章をした。其内に品物も賣れ出す。急拵への賣人！も中々巧みにお客を引きつける應接も氣がきいて居た。賣り方も一生懸命であつた。二時半頃にはさしもの場内も可愛いゝお下げのお孃樣や美しい若い奥樣や元氣な御老人が入り亂れて身動きもならぬ程であつた。忽ち店が淋しくなる程品物は飛んで行つた。三時頃には早や餘興場も滿員となつて居た。ミス、クラフトンの獨唱は場内もひつそりする程巧であつた。ミス、マクロイのスコイトランドダンスには皆奇異の目を見張つた。幼稚園の子供の歌も可愛かつた。最後の伊藤一隆氏の手品は黑人跳足の定評のある通り其手ぎはの巧みで面白かつた事は云ふも愚かであつた。

瓶落しの秋の日が西に傾いてあたりが薄暗くなつた頃でも場内はかなり賑ふて居た。

其日は確かに大成功であつた。美しい花電燈は歡喜に溢れた皆の顏を照して居た。努力は無駄ではなかつた。私共は豫想以外の結果を得る事が出來たのである諸氏の情けに由つて作り出された此賜物はやがて社會の爲麗しい惠みの花となつて咲き出るであらう。略儀ながら此紙上を借りて諸氏の厚き同情を重ねて感謝する。尙來る二十九日日曜日には新館紀念と共にバザーの感謝祈禱會を開き神の惠みを壽ぐ計畫である。（會の一員）

八萬の施療

木岡莞爾

八萬人の貧民に施療し今は故人となられた森田八十郎氏が、基督敎傳道のかたはら施療をもせられた動機といふを聞くに。ある日貧民窟で夫婦喧嘩をして居るものがあつた。それは其家の女房が腹痛の爲め醫者に診察を請ひたいと夫に迫つたところ、夫は『此世智辛い時節に腹痛位で醫者にかゝつて如何なるか』と語荒く爭ふたのが元であつた。之を聞いた森田氏は氣の毒に思ひ叮嚀に診察せられたが腹痛どころか容易ならぬ容態であつたから直に藥を與へられた。これ以來貧民傳道には一面施療が必要である事を切に感ぜられて此事業を思立たれたのである。或る家に貧民窟のものを女中に雇ふた事があつたが、彼は『森田さんに診察して貰へば病氣はきつと治ります』といつた。施療するにも成るべく良い藥を與へて一日も早く治すのが、却て經濟であると森田氏から嘗て聞いた事もあつたから良藥の効果にもよる事であらうが、彼等貧民が醫術よりも其の人格に觸れて療された事も多かつたであらうと思はれる。聖書にも『汝の信汝を癒せり』とあるのもこゝではあるまいか。彼等の内には森田氏の生前を偲び、墓所の草を摘みて患部に摩擦すれば、痛みが減るとの迷信を持て居るものもあると聞いた。鮫ヶ橋の或る貧民の小兒が大患であつたが、其の兩親は氣を狂はんばかりに『森田さんが御在世ならば此の兒は死なしはすまいが』と動かす事も出來ぬ病兒を、せめては先生の墓場までつれて行くといふてきかぬ。彼等には無理もない。しかし今や淸き國に神と共に居らるゝ森田氏は定めし之を氣の毒に感ぜられて居る事であらう。

森田氏は貧民を取扱ふにも其人格を重んぜれらて、乞食根性を起させぬやう、たとへ一錢二錢なりとも感謝の爲めに醫院に小さな箱を備へて『何程なりともお志しを入れて下さい』と微笑を含むで云ふて居られた。森田氏永眠後令弟外村氏が基督敎の傳道と共に、世の多くの慈善家の同情により施療を繼續せられて居る。聖書に所謂『小き一人の者に冷なる水一杯にても飮する者は誠に汝等に告ん必ず其報賞を失はじ』である。或る年の暮三百圓の金がなければ如何しても醫院の諸拂が出來ぬので、外村氏は此事を神に祈りつゝあつたが程なく篤信家の遺言により丁度三百圓の寄付を與へられた事もあつたさうである。之れ偶然といはうか、祈を聽かるゝ神ありと信ずる事が出來まいか。

ヨセフが若し逃れたならば（つゞき）

一會員譯

斯んな風でヤコブの家には其後數年間樂しい面白い時が續きました。私もそれを眺めて大變嬉しく思ひました。殊に私があの犬を殺してヨセフを救つてやつた結果、斯くなつたと思ふと非常に樂しう感ぜられました。實に犬を殺した事は私に取つては賢明な處置であつた樣に思はれました。

しかし滿足と喜悦に充ちた彼等の生活も年經るに從つて次第に樣子が變つて參りました。

ヤコブは非常に年が老ひて働く事も出來ず一日家にのみ引籠つて居ました。そして時が經つに從つて穀物がこれまでの樣に熟らなくなり、オリーブは萎み、其の上に動物は殆んど凡て惡疫のために仆れてしまひ、駱駝も大方死んで、骨と皮ばかりの何の役にもたゝないのが一二疋ばかり殘つて居るに過ぎず牧羊者は三四疋の弱つた羊を田舍から引いて來て、「是が數千疋中の殘つたものでございます」と云ひました。十二人の兄弟達の家でも萬事不如意になり、非常に心配して話しにも力が無くなつて來ました。それから婦人や子供達はこの恐しい飢饉のために泣いてるばかりでした。そこで兄弟達は色々の家畜類を飼つて居た人を集めて相談會を開きました。そして自分達の食物や動物の食物を如何したものかと云ふ事に就いて協議いたしました。

私は何故穀物の澤山あるエヂプトに行かないのかと叫びかけましたが、先づエヂプトを見ましても其所も矢張り同じ事で、いやヤコブの居る邊よりももつと惡い位です。數年間洪水が續いて、如何しても人民を助ける事も出來ず。元來エジプト政府の役人といふは愚かな人々ばかりで、多年豐年がつゞいても貯蓄する思慮がなくて唯無益に費つてしまひ、殊に或人等は來年の仕事の邪魔だと云つて、折角豐熟

した穀物を片つぱしから燒いたりしたのを私は見たことがある位で、ヨセフのやうに、年々穀物庫に貯へさせる考もなく、政府の役人達は二百五十年前の或る古い彫刻物を再建することにうつゝを拔かして政治など顧みないものばかりでした。それで暫くすると百姓でも貴族達でも今にも死ぬかと思はれるばかりに困窮してしまひました。斯んな事になつた時私は再びあのいやな赤犬の事を思出して、大變心持惡く感じ初める樣になりました。

扨こんな話は長いばかりで面白くもない話です。私や案內者が見て居る少しの間に、是等の事は皆起つたのでありましたけれども、これがためにヤコブの一家では、ヤコブの名譽や其の住居の便利は全く失せ去つて、飢饉に苦められる其日〳〵の生活のためにお互に爭鬪するやうになりました。數千の家來と金と名譽を持つて居た樂しい牧者の團體は無くなつて、其の代りに數疋の飢えて半分死にかけたやうな駱駝や、山羊や、牛や、馬などが、いなごや野蜜等でやつと生命をつないで居るのを見ました。しかし、私がそれ以上につらく思つたのは、丈夫な人々が殘忍なるカナン人の爲めに打殺されて居ることでした。

神樣は何處から是の恐しい惡魔が出て來たか又如何して人々の中を荒れ廻つたかは、能く知つて居られます。しかし私はもうこれ以上惡魔の事を書いて此の筆を汚すことは致したくありません。私は彼等がナイル川の田舍に殖民するのを見た時には全くいやになりました。さうして居る中に段々エジプトは衰へて、終に最後になりました。私は尙ほ不快な思ひで見て居ました。處がリードー殖民は火神崇拜者なるカナン人の多くの群と、その習慣と其の宗敎等と共にカルセージに上陸しました。面白かつたのは憐れなイニヤスで、リードーの群が亞弗利加の岸あたり迄航海して居つたのに、彼は地中海邊を彷徨て居ました。

又モリア山とシナイ山の山腹に宏壯な又華美な都

命を建てそして人々が偶像を拜んで居るのを見た私は、大變不愉快で其の歌つて居る歌を聞いた時は、思はず手の掌で耳を蔽ひました。オ……神樣、あの可愛らしい小供を一度に百人程づゝ燒殺す時の其の泣き聲や、其の母親が火の側が狂ひ嘆く樣は、今になつても云ひ現すことが出來ません。私は本當にそれを見るに忍びませんでした。

しかし何處を見ましても同じ事で、ギリシャあたりでも何をすることも出來ませんでした。ダナスがエジプトの學藝を持つて來た時まで、未だ其處にはエジプトの美術も學問も有りませんでした。と云ふのは殘忍なカナン人がエジプトを荒し、そしてギリシャに足を止めて、そこに大きな城を築き其中に住んで居りましたので、あの私共の尊敬して居るエペソなどは餘りの下劣な彼等の生活に驚いて顏を外向ける程でありましたからであります。そしてカトマスの時代に入つても、彼から何の影響も受けず、又彼が來たかどうかさへも知らすに過ぎました。唯私の知つて居るのは、火神崇拜者の群のエジプトの征服の時まで存して居た、文字や書籍などは皆失なはれて、若しカドマスが來たならば彼等よりもつと下等な生活をしたゞらうと云ふ事であります。

實にギリシャは私がお話するのも嫌な程、萬事に不整頓で、野蠻人はどし／＼國中に侵入して來ました。そして之があの赤犬を容易く私が殺した時、彼等の爲にした事の結果であります。イニヤスの一行は初め都合良く行つて居る樣に見えました。私は其の船がリードー港から勢ひよく出て來るのを見ました。其外色々な事で私は第二回のポエニ戰役の時までは何が何だか解らず、非常に迷はされました。そしてあの赤犬が又も眼前に現れ出た樣に思ひました勿論私はそれを見たのではありません、既に、あの犬の肉體は十年ばかり前に他の動物に食はれて無くなりました。しかし其の犬の禍は今日までも殘つて居るのではないでせうか。

スキピオの心配氣な顏や、ローマの勇ましい紳士

達の私かに會議せる樣や、又彼等が少し計の金錢を計算する有樣や、カルセージの大壓迫に對して反抗する樣子を見た時には、實に私は悲しみました。御覽なさい、カルセージは東洋の凡ての火神崇拜者の先まわりであるばかりで、歷史で東方國としては、エジフトとギリシャに分たれ、殘りはアレキサンドルの帝國として知られて居りました。しかし此の赤犬の結果によれば、前にお話したギリシヤ民族の外の者は、皆火神崇拜者中の一の人種であつて、恰度今日米國に住んで居る印甸人のやうに、權力が平等でなく、位置も亦不公平でありました。此の事がスキピオや其他の人を失望させましたのですが、それは尤もの事で全世界を一時に見た私は、それを良く知る事が出來ました。

ハンニバルが伊太利以外の地中海岸の國々を皆從へ、ローマに來て私があの赤犬を殺したやうに、いやそんなに容易にではありませんでしたが、ローマの男子女子小兒の區別なく全人民と戰ひました。又羅馬の方でも一度カルセージで軍艦を燒たりしましたが、結局駄目で大敗北を致しました。嗚呼私は今でもよく覺えて居ますが、海軍提督の乘艦の綱はローマの婦人の頭髮で造つてありましたが、それでも沈んでしまひました。たとひそれがマニラの大麻か鐵で造つてあつても、あの殘酷なシドンの大將が數百の水兵と掛つて來た時には、如何する事も出來なかつたことでせう。羅馬は遂に亡んで仕舞ひました其處で殘忍な人達は先づ初に町を燒きました。そして耕す事の出來る者には耕させ、少年少女は奴隸にしました。其他の者は皆戰死し、又は溺死したのでした。斯んな風で火神崇拜の民は二世に渡つて、百年間も支配しましたが、それは實に驚いた支配の仕方で、淫亂、不仁、暴政、殘酷、殺戮、飢饉苦悶、恐怖に充ちて居ました。其の時には「死」と云ふ事は寧ろ彼等亡國の民に取つては惠でありました。（つゞく）

十字架

ホイチアー作
松榮譯

(1)ユダヤのをかのうへ、
ガリラヤの波のうへ、
ヨルダンの流のうへ、

死して眠れる海をやしなふ漣の上の日光よ。
緑の森よりいとさはやかに、
かろき微風はそが香れる翼に生れて、
レバノンの香柏の頂は、
陶然と太陽の中に震ふ。

(2)
數時にして變化は來れり、
空は雲なきに暗く、
喜怒の聲は死して、
誇れる膝は地に屈めり、
死の丘上に變化はありて、
環視者は息を喘ませ、
犧牲の暗黑なる光景より、
狂暴の眼を轉けたり。

(3)
その犧牲よ―彼の死よ―、
高うして常に聖き聖主！
宜こそ心ある天は朦くなりて、
看居る太陽をば蔽ひつれ、
常なる光は去りて、
白晝に夜は臨み、
地震はその洞窟の床より、
恐怖の震動もて醒めたり。

(4)
死者は地下に目醒めて、
彼らの牢獄の戸は裂かれたり、
かくて死の封印もてもの凄き彼らは、
白晝を彷徨す。
ケルビムの寺院、
神の家は冷たく朦く、
そが震動せる壁上の呪咀はありて、
そが大なる被布ぞ裂けて落つなる。

(5)
宜こそ地の洞窟の深みは震ひ、
山は搖れつれ、
宜こそ經衣つけたる死者は、

苦難みます神を凝視んとて出で來つれ。
神のゑらび玉ひし聖主の、
罪の爲犧牲として與へられし時、
宜こそ宮殿の神座は朦くなりて、
影ケルビムを蔽ひつれ。

(6)
かくて自然がその座に震へ、
死はその鐵の權力を棄つるとき、
罪にみちたる心のみひとり、
平然としてこの贖の時を見るべきかは。
聖主の深きなやみをはげしくし、
きみの血の涙をしげくせし、
罪に滿てる心は、
そが打ち震ふ感謝を拒むべきかは。

伊豆三宅島雜詠

辻村やす子

初秋のなかしの吹けばつばの木山
　みどりの空にしら雲の飛ぶ。

海士小舟苫をしきねの島山は
　いかだに似たり浪こえぬべし。

千年の椎の大木に風吹けば
　たに山どよみ濤のおとのする。

隱岩ありとしられてわたつうみの
　からあゐの沖に白なみさわぐ。

かくつちの神のあらびに黄楊林
　方十ちやうをやけ野となしぬ。

おや雀ひなに何をかくくむらむ
　ちよとよぶねにちよとこたふる。

雨やどり今立ちいでし松村に
　くもきれ行きてなくほとゝぎす。

秋

同　人

落ちたぎつ湯の花澤もみゆばかり
　あき山はれて鵙のこゑたかし。

夕べ／＼きちかし色の黒雲の
　むら山めぐり秋のかぜふく。

かみ山の檜原のきりに消え行けば
　すそのの萩にしらさめかゝる。

小預言者（三）

横田貞治

亞麼士

預言者アモスは、文學的預言者の最古のものである。勿論彼より古い豫言者はあり又其の預言の斷片の書き殘されて居るものもある。然かし預言者の名と其言が保存されて一書をなして居るものの中ではアモスの其れが最も早きものである。

彼は北國イスラエルの王ヤラベアム二世治世の後半に屬するの頃紀元前七百六十年より七百五十年の間に於て豫言せしものゝ様である。ヤラベアム二世は英邁の君であつて、よく近國を平げ商業を盛ならしめ實に北國イスラエルに取り空前絶後の黄金時代を現出せしめたのであるが、其は單に物質上であつて民漸く泰平に慣るゝに從ひ、奢侈淫靡の風に流るゝに至つたのである。宗教は如何にと云ふに、民は決してこれに對し冷淡ではない。否寧ろ益々賑はしく守られつゝあつたのであるが、漸く宗教の眞義は忘られて單に儀式祭禮に於て盛んであつて道德的でない。殊にバール敎の弊風を受けて甚だ墮落したる形となつたのである。

かゝる時にアモスは北國イスラエルの首府サマリアに預言したのであるが、彼は決して北國の人でない、南國ユダのテコアの人である。テコアの都とはエルサレムの南方十二哩の所にあるものであつて海拔實に二千七百八十八呎の山上にあるのである、其より以東死海に下る十八哩は荒廢たる山野で、之をテコアの荒野と云ふのである。アモスは此野にノーケッドと云ふ特種の羊を牧し其側無花果の一種を栽培しつゝあつたのである。「獅子吼ゆ誰れか恐れざらんや主エホバ言たまふ誰か預言せざらんや」（三章八）とは蓋し此荒野の生活に於ける經驗より來りし

ものであらう。彼は牧者に似氣なく想高く文章精錬である所、決して尋常一樣の牧者でなかつた事を知る事が出來る、確かに秘かに修養を怠らなかつたものであつたらう。南國に屬する彼が、何故北サマリアに態々行きて預言せしものか。明かにこれを知るを得ざれど、多分羊毛を賣らん爲め、當時富裕の都サマリアに行きしものなるべきか。サマリア迄は二日路にして、其途上各國人に出會し其等の國々の惡業を見聞し、荒野に嚴格なる生涯を送りつゝあつた彼を、少なからず憤慨せしめたものであらう一章二章に各國人の罪惡を非難せるは即ち其れである。

彼は更に進んでサマリアに達するに及び、神の選民と誇れる此民が、返つて他國民に增して不義にして壓制、驕慢にして奢侈、浮薄にして淫蕩、其不道德至らざるなき有樣を目擊し、慷慨悲憤の情禁ずる能はず、乃ち其職業を投げ棄てゝ預言するに至つたのである。エホバの選民なりと自ら誇れる民よ、彼等は選ばれたる者なるが故に、返つて其罪に對して罰を受けん「地の諸の族の中にて我たゞ汝等のみを知れりこの故に我汝等の諸の罪の爲に、汝等を罰せん」(三章二)今やエホバはアッスリアを起こし給ふて此民を罰せんとし給ふ、「イスラエルの家よ我一つの國を起して汝等に敵せしめん」(六章十四)と叫んで居る。

賤しき一牧者の語に耳を傾くるものは少かつた。されど彼は更に屈せず、國家の隱れたる力の中心たるべき宗教の都ベテルに行き聲を極めて預言したのである。ベテルの祭司アマジヤこれを容易ならぬ事としてヤラベアム王に訴へしも、王はアモスを狂人視して取り合はなかつた。天下は滅亡の預言に對しては餘りに泰平である。されどアマジヤとしてはアモスを追拂はずんば自己の職業に差閊あり、乃ち出でゝアモスに云ふ「先見者よ汝往てユダの地に逃れ彼處にて預言すべからず是は王の聖所王の宮なればなり」(七章十二以下)と。アモスを職業的預言者と見た所、又王の名に於て宗教の權威を聲明せんとす

る所如何にも堕落宗教家の陋劣なる心を思はしむる神の前には王の家の滅亡をも預言して憚らざる硬骨正義の士アモス衷心怒らざるを得ず「我は預言者にあらず又預言者の子にも非ず我は牧者なり桑樹を作る者なり」と。此處に「子」とは子供を云ふにあらず屬するの意、徒の義、一員と云ふ意味にして商買的占者なる預言者の徒を云ひしなり。彼は更に進んでアマジア一家の滅亡を預言したのである。

彼は斯く力を極めてイスラエルの民を悔改めしめんとしたが、餘り反響もなく、涙を飲んで空しく故鄕に歸つたものゝ樣である。彼は質素嚴格の人而して修養あり又世界の大勢を達觀するの明もあつた樣である。サマリアがアッスリアによりて亡ぼさるゝの預言が、遂に三十年の後事實となりて顯はれし事は實に驚くべき事と云はねばならぬ。

今彼の宗教的觀念を瞥見すれば。アモスに對してエホバは正義の神である。されば不義罪惡のある所啻にイスラエルのみならず、異邦人をも罰し給ふなり(一章二章)かく神の義に絶對の權威を認めしアモスは知らず〱世界一神教を唱ふるに至つたのである。由來イスラエル人は自國の神を尊崇するといへど又他國の神の存在をも認めしものたる事は他國民と異ならず、後世の預言者といへど又之れを認めて居る者もあるのである。然るにアモスに於てはエホバはこれ全地を支配する神たる事が明かに示されて居る。固より彼は特に此點を鼓吹した譯でもないが、彼が神の正義に絶對の權威を認めて語る所に自然と其結果を見るに至つたのである。蓋し道德とか良心とかは世界的のものであるからである。

アモスの神は啻に世界的のみでない、更に宇宙的である。神の手は陰府にも降り又天にも達す。カルメルの山巓、海の底といへど、彼の目彼の力の達せざる所はない(九章二―四)實に天地の主宰である(一章二節、四章六節、七章一節四節、八章九節十一節、九章三節)而して人類の歷史を指導す(六章十四、九章七節)。天地の内エホバのみ唯一の神であると云

ふ觀念は直接に或は理論的にアモスによりて論ぜられつゝあらずとも、實際に於ては其處に歸着せざるを得ない。これ實に彼が正義の神の偉大卓越なる力に打れしの實驗より出し思想に外ならないのである
此正義の神の要求し給ふものは只正義の外何物もない。イスラエルは宗教的儀禮献物等によりて神の心を喜ばすを得ると思へり。「朝毎に犠牲を携行き三日毎に什一を持ち行き酔いれぬ者を感謝に献げ願意する禮物をなす事を好む所の民にてありき」（四章五）とアモスは嘲罵して居る。斯の如きは神の好み給ふ所でない—「我は汝の節筵を惡み且いやしむ又汝等の集會を悦こばじ……」（五章廿二）。彼等の尊ぶ聖所は毀たれん、國民の宗教的渇仰の中心たるベテルもそも〳〵神の前に何の用をかなす（三章十四、七章九、九章一）神の求め給ふものは只正義なり「公道を水の如く正義をつきざる河の如く流れしめよ」—（五章廿四）彼が宗教的儀式を攻擊するは、其れが偶像的であるからではない。一體に宗教儀式其ものが何等道德と關係なきのみならず、いつも不道德と關聯して居るからであると云ふのである。
正義の行爲則ち眞の宗教と云ふのであるが、これを必ずしも淺薄なる宗教的觀念とすべきでない。アモスの置かれたる社會に於ては、斯の如き主張をなすの急務なりしを思はざるべからず。而してアモス自身に於て見れば單に正義の行爲あらば足れりとせしにはあらで、矢張り神が靈的交通をなせし事は明かである。寧ろ彼は先づ其の深き宗教的經驗よりして、後に正義人道を唱ふるに至つたのである。彼は決して神との精神的關係を等閑にせしものではない「エホバを求めよさらば生くべし」（五章四及六）とある彼の語よりも寧ろ彼の人格は正義人道を唱へるのみであつて一步を進めざる淺薄なる道德學者社會主義者輩の如きでない事を證して餘りあるのである。
アモスはイスラエルの將來に對して全く絕望したものの樣である。此神にして此絕對の義あり此民にして此惡むべき不道德あり、いかで此民亡びざるの理あらんや。アモスは此民の全滅を期した樣である九章八節以下に於て樂觀的の預言があるが種々なる理由で之は後世の人が附加した者と認むべきである

○中央委員會

大正五年十月七日午後二時半神田本部に於て開く、出席者、井深花子、ミセス、クレメント、三谷民子、津田梅子、小此木松子、星野愛子、志立たき子、山田千代子、ミス、ソールの各委員、河井道子、ミス、マシユウ、ミス、レーガン、加藤高子、ミス、ペーヂ、ミス、エマソン、ミス、ガンター、ミス、ハード、ミス、グリーンの各幹事及書記松宮信子にて、横濱青年會より野村道子、室原富子の兩委員も出席せらる。

井深委員長の聖書朗讀、及ミス、ソール、星野愛子姉の祈禱を以て開會。松宮信子前回記錄を朗讀す次に前回委員會よりの引續きたる協議事項を議し、(一)星野愛子姉を新に學生委員の一員となす事(二)善良なる文學書を翻譯出版する爲其資金(一冊出版費凡そ一千圓)の募集を歸米中の幹事に依賴する事を決議す。

それより報告に移り先づ前年度支出總額金四千四百參拾壹圓七拾壹錢也との會計報告あり、受入即決。次は小此木松子姉の夏期修養會報告にて本年修養會は豫想外の大成功なりき其理由は横濱會員諸姉の多大なる御助力に依る事と學校は旅館より室の都合好き爲なり。來年は西及北の二ケ所に夏期修養會を開く計畫なり云々。又三谷民子姉の學生委員會報告あり六月下旬第一回學生委員會を催し學生青年會員を奬勵する事柄につき種々協議の末其第一着に夏季休暇を利用し彼等に數種の問題(七月號記載)を提出する事としたり。德島、廣島、弘前よりは幹事の訪問を請求し來れり學生の働を奬勵促進するは目下の急務なれば是非本部幹事の訪問ありたしとの希望あり。この希望に基き委員會は此冬成るべく多くの諸學校へ少なくとも一幹事の出向する事を決議す。次に井深委員長は財團理事として大正九年一月三十一日迄留任に可決す。それより財政委員により提案されたる大正六年度豫算案を議することとなり、先づ豫算

案の提出あり。前年度より異なりたる豫算條目は、事務室借用費及び雜誌擔任係の俸給及横濱青年會會計の删除等にて、豫算案總額金五千百八拾貳圓〇壹錢也其中金參千貳百拾九圓參拾錢也は收入の豫算あれば不足額は金壹千九百六拾貳圓七拾壹錢也にて其中殆ど一千圓は見込あれば結局金九百六拾貳圓七拾壹錢也を調達するの必要ありとの事にて、これは委員が各友人を紹介し或は義捐者を募る事に決せり。次に新委員選擧に移り米國大使バルドウィン夫人及聖公會宣敎師クック夫人を中央委員に推薦し、雪野夫人へも横濱委員より今一應中央委員になられん事を乞ふ事とす。

ミス、マシウの横濱青年會の報告あり、ミス、ベーカーは母堂御病氣故一刻も早く歸米を要し委員の承認により九月中旬出帆す。それに對し委員は成るべく早く同姉の再來を望む云々。次に野村夫人より室原夫人と共に來會した事は横濱女子青年會を獨立組織となし青年會支部の一となしたき希望を齎せる旨を述べ委員の承諾を得たしとのことなりしが、河井幹事より横濱青年會は過去四年間に於て大發展をなし獨立組織に異存なしとの意見に對し一同異議なく横濱青年會獨立する事に決議す。爲めに横濱青年會は野村夫人の保證により新たに櫻木町附近に一會館を借受けし事の報告あり、此際ミス、ベーカー歸國し幹事の補缺を要す故にミス、レーガンを横濱幹事として送る事をも可決し同姉が是迄の本部に於ける働に對し一同深く謝辭を述ぶ。次に(一)長らく女子英學塾に預け置きし外人宿泊所の家具を横濱青年會へ貸與の件(二)中央委員會に宛たる河井幹事よりの手紙へ返事のため同姉のなすべき働及其時間等を決議する爲め其委員を選擧する事(井深委員長より長谷川喜多子小此木松子兩姉を指名す)(三)河井道子ミス、マシユウ兩幹事及び新幹事ミス、ガンターミス、グリーン、ミス、ハードの爲め歡迎會を開く事準備委員として志立夫人、ミセス、クレメント、小此木松子姉を依賴する事、(四)新幹事派遣に對し米國

女子青年會本部へ禮狀を送る事の諸件を議決したり

此時前記三名の新幹事を委員に紹介す。

次に河井幹事より同姉在米中東京の新築會館に對し金六千五百圓を送りし事及同姉の斡旋により紐育に於ける日本實業家が日本婦人に對する働に大いなる興味を起すに至りたる事の報告あり、引續きミスマシウより。河井幹事の渡米は實に偉大なる結果を齎せり。即ち新幹事を得し事、幹事養成所に於ける米國婦人が日本に對する興味を强くせし事、又同幹事の移民事業に對しプレマー夫人は一ケ月カリホルニヤに行く事となり、加州の青年會委員は必らず何事かをなす事に又ミス、タピング、ミス、エリス及他の一婦人は直接當事業に携はるのみならず、助力を與ふる日米婦人を見出すに奔走されつゝあ。尙太平洋沿岸の委員は同事業に對し一年金七千圓を費す事を申出でられ日米婦人の親交を圖る爲め You I(友愛)會なるもの組織され安孫子夫人及土本夫人は該會の爲め大なる茶話會を開けり。又河井幹事の爲め大集會催され、當日の出席者五百人なりき云々の報告あり。

ミス、レーガンより阪本花代、大谷久子、横澤つぎ子諸姉渡米の報告あり。最後にミス、ガンターを本部幹事としミス、エマソン、ミス、グリーン、ミス、ハードの語學校に通學を指定す、右終り一同主の祈を以て閉會す。

○東京基督教女子青年會

去る十月十四日(土)のバザーは左の會計報告の通り豫期以上の大成功を得ました、これ實に會員及び會友一同の陰に陽に興味を以ての多大の御援助と厚き御同情と祈禱に依る事を深く感謝をして居ります又單に物質的方面に於てのみならず此の計畫が始まつて以來一同は樂しき相談會を開き貴き時間を割き持てるものを與へなほ祈つて迎へました。此のバザーには美しき一致協力の精神が溢れて居りましたので此の大成功が來りしものと確信を以て感謝致して居

ります。
終りに諸姉妹方には遠近より種々の品物を御贈與下さいましたので實に大きなバザーとなりましたことを嬉しく感謝して居ります、尚又當日種々御盡力御働き下さいました諸姉妹方へ深く御禮申上げます當日の狀況は別項一會員の「バザーの記」にありますから略しまして玆には收支計算報告をのみ掲げます

バザー收支計算

總收入高
金九百拾六圓八拾參錢也
內譯
金參百〇九圓五拾錢(切符賣高)
金四百參拾壹圓貳拾壹錢也(品物賣上高)
金貳拾壹圓參拾八錢也(花代)
金參拾八圓四拾錢也(紅茶、ココア)
金拾五圓也(汁粉)
金五拾七圓貳拾四錢也(キャンデー、チョコレート、栗、ポンス、ジャム)
金四拾四圓拾錢也(寄附)

總支出高
金六拾五圓拾五錢也
內譯
金貳拾五圓七拾五錢也(菓子代、茶代)
金貳拾六圓參拾錢也(材料)
金拾參圓拾錢也(印刷、郵便、諸雜費)

合計差引
金八百五拾壹圓六拾八錢也　純益金

○東洋英和青年會の寄附

同青年會にては本年度夏期修養會へ出席の代員一名家事の都合にて出席せざりしにより代員出席費用の中金八圓の殘餘を生じたりとて協議の結果本部會計へ寄附することとなりたる由にて今回該金額を送り越されたり。

○橫濱女子青年會移轉

橫濱女子青年會は十月廿八日より同市櫻木町六丁目橋際なる商業會議所と同一の建物に移轉することとなれり。同廿八日には同會の催にて渡米婦人に關する演說會を開きたる筈にて辯士は島田三郎君、添田壽一博士、河井道子女史の三氏なり。

●●●●●●●●●●

○橫濱(男子)青年會館落成　豫て橫濱公園地前に建設中なりし橫濱基督敎青年會館は此程竣工、十月十八日午後四時半より獻堂式を擧行せり。同館は間口十一間奥行十六間の鐵筋コンクリート總二階建にて

食堂大講堂兼體育場、事務室、修養室、理事室等其他種々なる設備完備せり。尚同會は十七歳以上の男子は何人も會員となるを得ることなり。

○東京帝大青年會寄宿舍落成　豫て市內本郷區追分町五十三番地に建築中なりし帝大學生基督敎青年會館は此程落成去る十月十七日獻堂式を擧行せり。

○東京協同傳道信徒大會及婦人傳道大會　東京市協同傳道は十月中旬より十一月上旬まで擧行中なるが去る十月十六日午後六時半より本鄉中央會堂にて信徒大會を開催し來會者多數にて滿堂立錐の餘地なく諸氏の熱心なる祈禱に次で植村正久、マッケンヂー河井道子諸氏其他四五名の有益なる奬勵あり頗る盛會なりき。又十月廿八日午後同所にて婦人傳道大會を開催し安藤太郎（獻身の犧牲）名出保太郎（煩悶の解決）鵜崎庚午郎（婦人の使命）等の講演あり是亦非常の盛會なりし。

おとづれ

◎ミス、カフマンがお連れ下さいます

カナダ　坂本花代　大呑久子

去る三日午後兩人とも無事キチナなるミス、カウフマンの御宅に到着致しました。トロント迄はミセス、パタソンが御世話被下御蔭様でカナデアン、ロッキーの勝地をよく〳〵拜見致しました。兩人とも至つて健かに暮して居りますから御安心下さいませ。當地は誠に涼しく日本の秋の時候にて誠に心地がよろしく御座います諸所に御招きを受け昨日と一昨日とは忙しく暮しました、今日は午後よりトロント市へ博覽會見物やら着物の仕立やらに泊り掛でミス、カフマンがお連れ下さいます何でも彼でも驚く事計りで御座います何れ又兩赤毛布の受けし印象を追つて御知らせ申上ます、只無事に着きました事丈を一筆認めました皆様御大切に。（九月五日）

◎及第出來ますものをお選び下さい

米澤　上野俊子

朝より晝迄晝より夕迄と斯につながれた生活により主の御旨に任せ奉り一日一時を生かして頂き度く努力致し日々喜びの日を感謝して暮し得られます事此上なく有難この喜びを配け與へ度く小さき仕事なりとも主の御命に充實した僕となりたく祈り居ります。御會皆々様は御壯健にて日々主の御國設立の爲め社會の爲め婦人の爲め御多忙なる御生活を御續け遊ばさるゝ御事限りなき感謝にて小さき心の限りを捧げて御事業の爲め祈り居ります、十月號青年界嬉しく拜見致し多大の力を與へられ空な心は俄に豐になりしを覺えて心よく

話す事も出來ます。バザーの品物一週間前に御送り申上ぐる様雑誌上にて拝見致しましたが一日置きに此頃は寄宿舎にまゐり居り思ふ様に手始めた仕事を終る事出來ず夏休みに作りしものあまりに不細工にて作り直しなど致し始めましたので空時間毎に下手な手を動かしましたので誠に〳〵御恥しいので御座います。けれども若幸に大きい石垣を御作り遊ばさるゝ中の一つの小さい〳〵石になる事が出來ましたらば何よりの喜びで御座います、御覧下さいまして及第出來ますものゝみ御選び下さいまし、名刺入は卒業生の一人が一心に作り呉れました物で御座いますから心のみなりとバザーに出席させ度く此者は姉妹三人で三人とも求道者で御座います、共に語り共に好く祈ります單純な美しい愛にいつも浴して感謝して居ります。早くから皆に御話したら澤山喜んで仕事をして下さる方がありました事を知り自分の用意なく届かざりしを恥しく御詫申上ます。

一週間前にと御座いますのに遲く御送りしてしかもつまらぬ不細工なものを御迷惑遊ばざるゝ御事と深く〳〵御詫び申上げます。「後れしは全く行かぬに勝る」との格言思出し厚顔しくも只今小包にして袋三つ敗物二つ名刺入御送　申上げましたから御許し下さいまして御受取り下さいませ。若し間に合つてバザーの店の隅にても出席し得ましたらば幸で御座います、在京ならば今少し働きが出來ましたでせうにと存じます、只今バザーの日晴天にして成功に終ります様に。御働き下されし皆々様の御上に御力の豐かならん事を祈ります。又名刺入を作つてくれました卒業生の一人からその作物に添へた手紙を下に記して置きます。

先生先達の晩は誠に有難ふ御座いました、深く御禮を申上ます眞實に樂しく嬉しう御座いました只感謝致して居ります。其時御讀み下された河井先生の御手紙、あのバザーの開かるゝ事の書いてある所を先生が御話し下された時私も何か少しでも御助けになる事が致し度いと思ひました、其時早速思付たのは何時ぞや縫取をして置いた布のあつた事で御座います。そしてそれで名刺入を作つて見様と思ひましたそして早速その翌晩から作つて見ましたが餘りに不細工に出來まして誠にお恥しう存じます。然しお役に立つか立たぬか知れませんけれど、もし心ある人の手にでも入り、少しでも御助け致す事が出來れば此様な幸な事はないだらうと存じました、今一つ作らうと思つて居りましたが時が無く二つ丈けに致しました。明日妹に頼みまして先生の御手許迄差上ますから何卒先生が一度御覧下されて餘り見苦しくて役に立たぬと思召したら御遠慮なく御手許に御止め下さる様に御願ひ申上ます。又若し少しでも役に立つ様で御座いましたら誠に申上惡い事で御座いますが又先生も御はづかしくいらつしやいませうが先生の品物の御隅にでも一緒に入れて御送り下さいます様御願ひ申上ます。

桐浦　梅野

◎北星出身の姉妹方が立てられたるもの

札幌　本間ふさ

此夏は妹と共に樺太の母の許に歸省致し久方振にて家族打揃ひ海に山にとかけまわり心行くばかりの樂みを味ひ元氣付て歸札致し候大泊町の景色の美しさ大なる松の林數里に連りフレップ車百合など高山植物美しく仙境に遊ぶ心地致され候宅の直裏に小高き山あつて松樹の下に板切を集めて机と椅子を形ばかりにしつらへて其處にて、讀書致し或は祈りする時の心地誠に氣ものび〳〵として若やぎたる様思はれ候。海邊には七八町砂干の時は實に樂しく候。此自然

の樂しみ多き所に先生も一夏御避暑遊ばさるゝならばなど存じ候。樺太には中學校二、高等女學校二、有之候追々には師範學校なども設くる計畫も候とか聞及び申候。珍らしく思はれたるは樺太犬の大なる事と露西亞式の建物とに御座候、殘留露西亞人の見すぼらしき姿にてパンを賣り歩くなどは哀を催さしむる事に御座候。佛教は誠に盛にて寺院の數多く基督教は信者の數も少なく聖公會一講義所御座候此講義所は北星出身の姉妹が建てられたるものにて日曜學校を盛に致し居り候。私が最も殘念に存じたる事は其他の若き婦人の活動せざる事に御座候。周圍の潮流に引かれ、將來の利のため信徒たるを秘め貫く者誠に少なからず候。殖民地の常とて華美に流れ耳目を樂ましむる事のみ多く候。活動する婦人の信者の一人も多く出づるをのみ祈り居る次第に御座候。

彼地にて種々なる方面より多大の教訓を與へられ候。

◎愉快なる半日を過し申候

紐育　鹽見縫

其後打絶え御無沙汰御免下され度候四ヶ月の休も終り今日愈紐育へ歸り申すべく候今此船にてハドソンを下り居候。夏期修養會のシルウアーベーにては非常に有益な集會に列し且つ多くのよき友を得申候、今日船中にて計らずも知人に逢ひ一緒に愉快なる半日を過し申候。十二週間のキヤシキル山にては非常に健康を増し新しき元氣を持つて秋の勉强を樂しみつゝ歸り居候。

◎一度當地へも御出下さる事が出來たら

札幌　高倉せん子

暫く御無沙汰致して居りました此程河井先生にも御歸朝遊ばされたさうで大分長い間の御用事を濟ませられて御無事の御歸へりを誠に嬉しく存じます。昨年の十月には久し振りで上京致しましたが今年はそれも出來ませんので御目に懸れず殘念で御座います、先生は相變らず御多忙の事と存じますが一度當地へも御出て下さる事が出來たならば誠に幸と思つて居ります。金森氏を御依賴して當地に於ける協同傳道も八日間、昨日終りをつげました、其結果決心カードに名をとめた人數は千二百名もありました私の教會では三百五十名程て其最後の結果の全くなる樣祈つて居ります、一ずつけ加へて上げますが私は昨朝男兒を得ました。

電・話・と・振・替・

東京市神田區北神保町十四番地

東京基督教女子青年界本部

電話　本局　五九八番

振替　東京貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共	内地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	金八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	
一回掲載	
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正五年十月廿八日印刷納本

大正五年十一月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子

印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIV NOVEMBER, 1916 NUMBER 10

On Saturday, October 14th, the Tokyo Y. W. C. A. held a Bazaar The articles sold were most of them made by the girls in the Y. W. C. A dormitories and Bible classes, and the tables were presided over by the girls and their friends. About 900 girls attended the bazaar and the proceeds will amount to at least ¥800.00.

On the day of the bazaar the Tokyo Y. W. C. A. also received a gift of ¥200.00 toward a moving picture machine. There is already a room in which to work the machine and this gift is received with great joy.

Miss Yuri Watanabe, who has just returned from five years study at Earlham college, Richmond, Indiana, has accepted the position of student secretary in the Tokyo Y. W. C. A.

The Yokohama Y. W. C. A. is soon to become organized as an independent association. There is to be a mass meeting to announce their future plans at the Y. W. C. A. on the evening of October 28th at 7 P.M. Mr. Saburo Shimada and Dr. Juichi Soyeda and Miss Michi Kawai will speak. On November 1st the Y. W. C. A. will take possession of its new rented quarters near Sakuragicho. These quarters will provide room for general association work, Emigration work and residence for Miss Ragan who takes Miss Baker's place. The W. C. T. U. and Woman's Exchange will also have a room on the ground floor of the building. It is hoped that among other things it will be possible to serve sandwiches and tea at lunch time to any friends who may wish to order such lunches there.

The National Committee held its regular autumn meeting, Saturday, October 7th. It was voted to ask Miss Kawai to spend as much time as possible visiting the different student associations in Japan this winter. A budget of ¥5,182.01 was voted, of which it will be necessary to raise ¥1,962.71. Mrs. Baldwin of the American Embassy and Mrs. A. W. Cooke of the American Episcopal Mission were appointed members of the National Committee. Miss Mamie Gunter was appointed to Miss Ragan's place as National Office Secretary, and Miss Elsie Greene and Miss Clara Hard were appointed to language study for two years. It was decided to have a reception in honor of Miss Kawai, Miss Matthew and these new secretaries. Miss Kawai reported that Miss Gunter's support had been provided by four Japanese gentlemen in New York city. The hope was expressed that two summer conferences might be held next year, one in the north and one in the south central part of Japan.



ピアノ
オルガンは
東京銀座の
山野樂器店
電話京橋 二二九八番
一〇五二番

大正五年十月廿八日印刷納本大正五年十一月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可